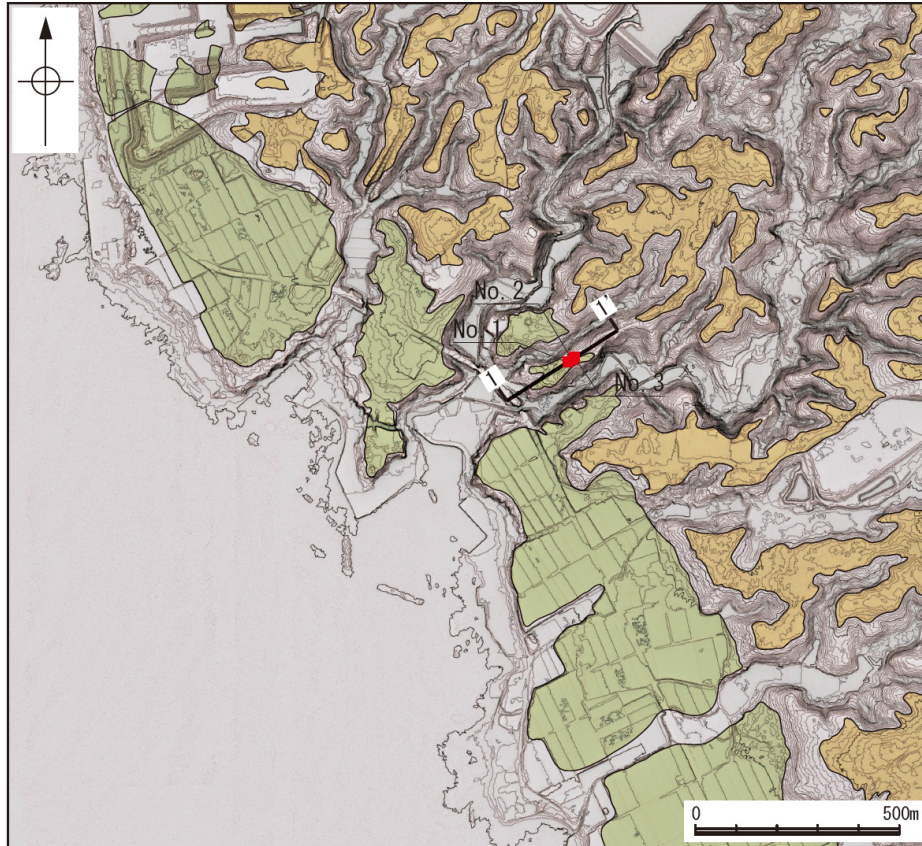
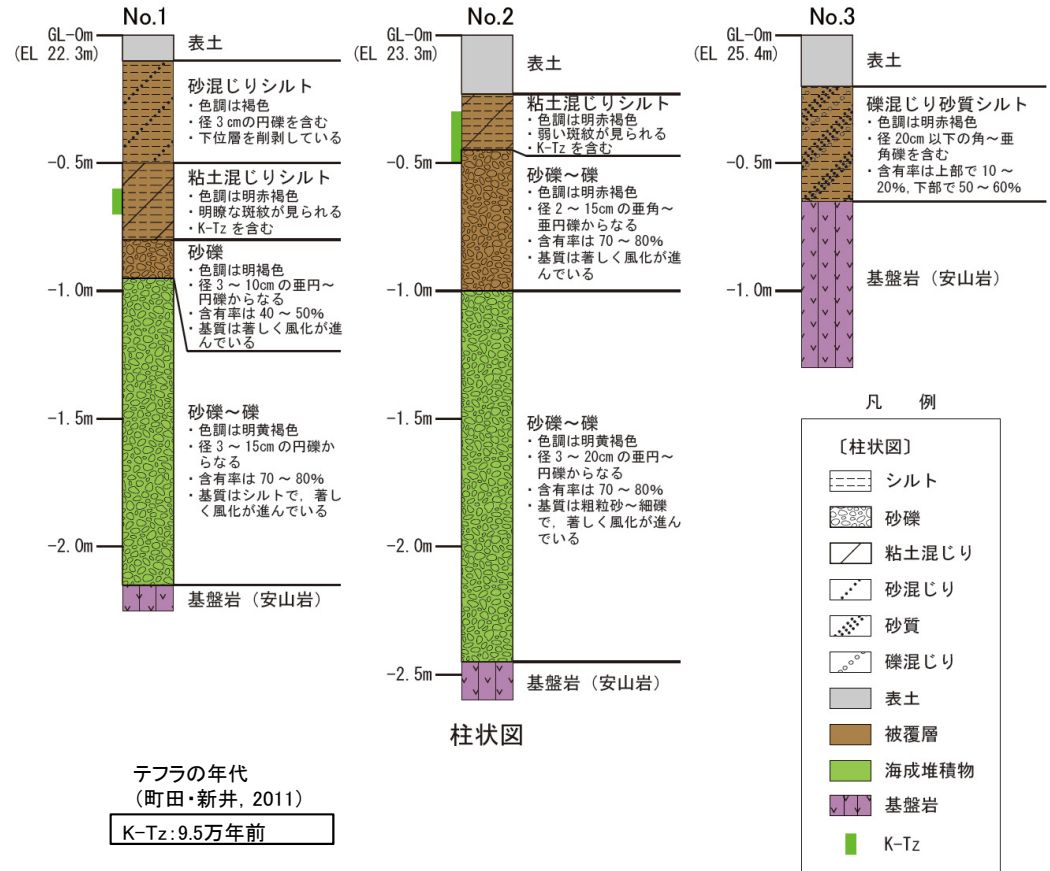


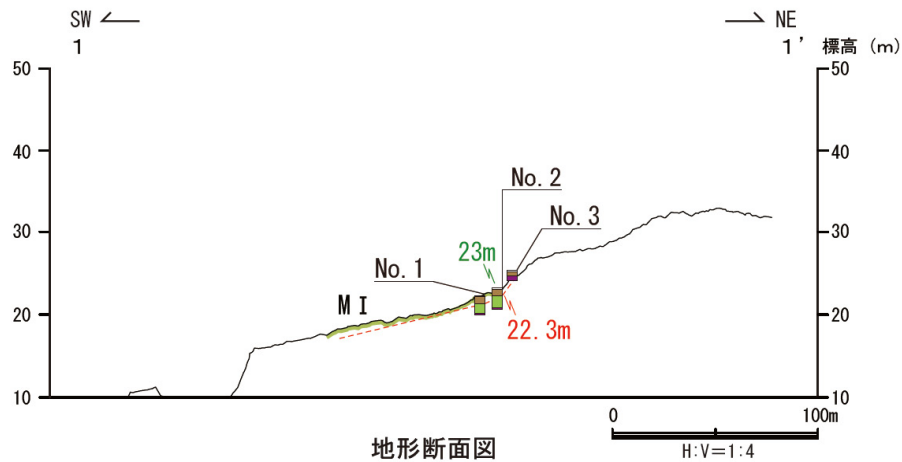
⑥中位段丘 I 面 段丘面調査結果



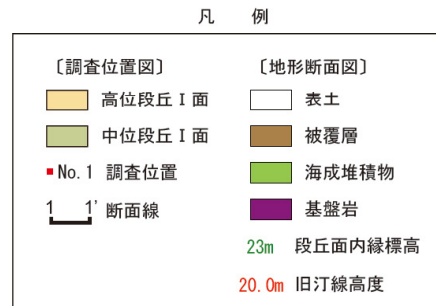
調査位置図



柱状図

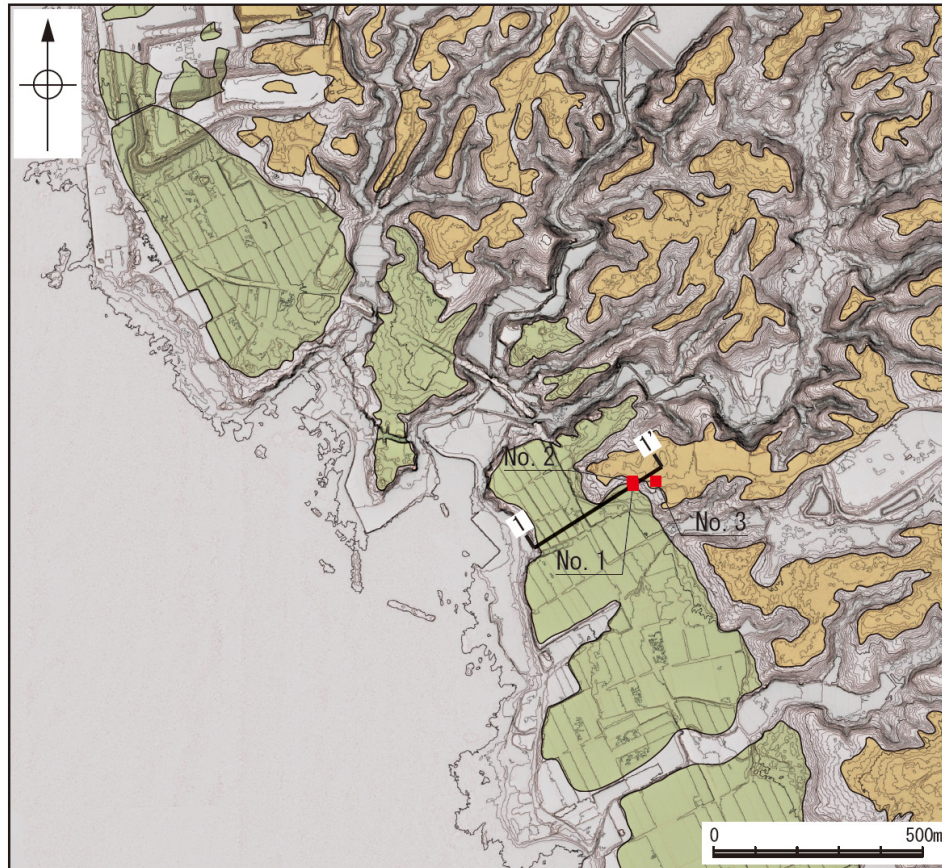


地形断面図

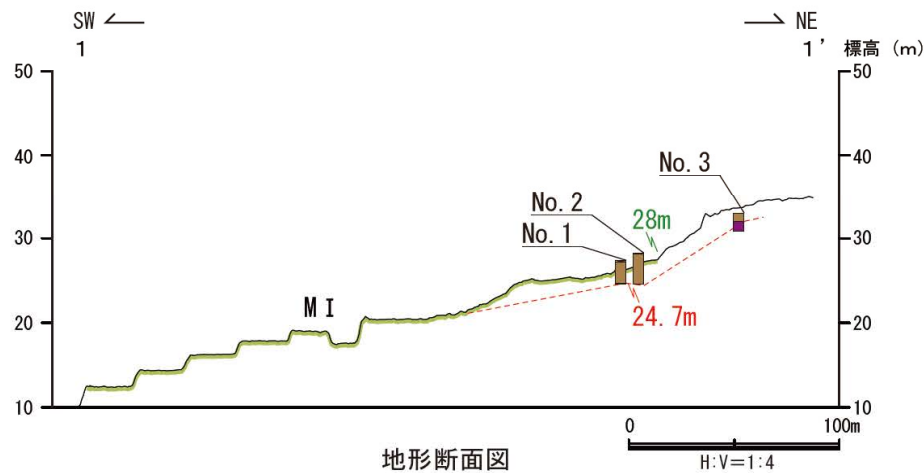


ピット写真 (No. 2)

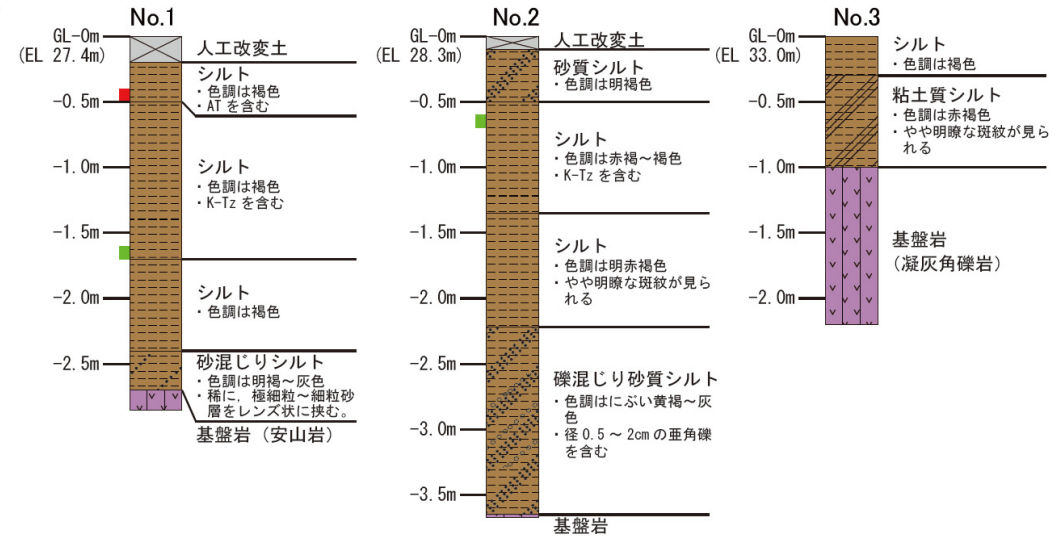
⑦中位段丘 I 面, ⑧高位段丘 I 面 段丘面調査結果



調査位置図



地形断面図



柱状図

テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万～3万年前
K-Tz: 9.5万年前

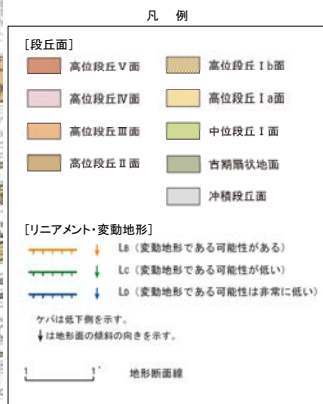
凡 例

〔調査位置図〕	〔地形断面図〕	〔柱状図〕
高位段丘 I 面	被覆層	シルト
中位段丘 I 面	基盤岩	粘土質
No. 1 調査位置	23m 段丘面内縁標高	砂混じり
1' 1' 断面線	20.0m 旧汀線高度	砂質
		礫混じり
		人工改変土
		被覆層
		基盤岩
		AT
		K-Tz

⑨高位段丘 I a面 段丘面調査結果



調査位置図

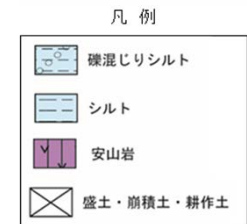


深度 (m)	標高 (m)	地質柱状図	地質名	土壌層位		色調	地層区分	記事	分析項目	
				名称	厚さ (cm)				火山灰分析	その他分析
0.0	45.61		シルト		0.35	褐灰色 (10YR4/1)	耕作土	強い指圧で変形する。草根混じりである。下部は褐色味が乏しい。強い指圧で変形しない。わずかに砂分を含む。赤褐色 (2.5YR4/8) 部と不明瞭な斑状模様をなす。強い指圧で変形しない。0.7m付近まで白色の中粒砂分をわずかに含む。橙色部と明瞭な斑状模様 (トラ斑模様) をなす。0.8~0.9mは、やや赤色味に乏しい。付近より深部は赤色味乏しくなる。下位層との境界は漸移的である。	AT 混在	遊離酸化鉄 結晶化指数: 0.73 活性度: 0.05
0.35	45.26		シルト	II B	0.15	橙色 (5YR6/6)	赤褐色土壌			
0.50	45.11		シルト	III B	0.90	赤褐色 (2.5YR4/8)	赤色土壌			
1.0			凝灰角礫岩 (強風化)		2.90	褐~にぶい褐色 (7.5YR4/4~7.5YR5/4)	凝灰角礫岩 (強風化)	強い指圧で変形しない。灰褐色部をわずかに含む。1.55m付近~1.6mは、径5mm以下のくさり礫をわずかに含む (含有率10%以下)。礫は、黒色・褐色等の安山岩角礫。下位層との境界は不明瞭である。風化により著しく酸化褐色化している。基質は、褐色~にぶい褐色を呈する。凝灰岩でナイフにより容易に傷がつく程に軟質化している。礫は、褐色・オリーブ色・黒色・赤褐色等、多様な風化色調を呈する。安山岩角礫~垂角礫よりなる。礫も全般にナイフで削ることができる程、風化している。礫径は、2~150mm以上で分級が悪い。礫含有率は70%以上。3.0~4.5mは、径100mm以上の大礫とそれを充填する基質 (細礫) よりなる。		
1.40	44.21		凝混じりシルト	III C	0.20	明赤褐色 (5YR5/6)	凝混じりシルト層			
1.60	44.01		火山凝灰岩 (強風化)		0.53	赤褐~にぶい褐色 (5YR4/0~5YR5/4)	火山凝灰岩 (強風化)	基質は、上位と同質であるが赤色味を帯びる。礫は、径20mm以下の安山岩角礫よりなる。礫含有率は50%程度。		
2.0			安山岩 (強風化)		0.97	にぶい橙~浅黄褐色 (7.5YR7/4~7.5YR8/4)	安山岩 (強風化)	著しく風化しており、ナイフで容易に削ることができる。5.5m付近までは粗粒~細粒状の白色粒子を多く含む、角礫質である。全体に割れ目は少なく、割れ目沿いの脆弱化は見られない。		
3.0										
4.0										
4.50	41.11									
5.0	40.58									
5.03										
6.0										

柱状図

テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前



コア写真

火山灰分析結果

試料番号	地層区分	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)	
				Opx	GHo	Cum			1.500	1.510
0.30-0.40	耕作土 10YR4/1	AT 混在								
0.40-0.50	赤褐色土壌 5YR6/6									
0.50-0.60										
0.60-0.70										
0.70-0.80										
0.80-0.90	赤色土壌									
0.90-1.00	2.5YR4/8									
1.00-1.10										
1.10-1.20										
1.20-1.30										
1.30-1.40	凝混じりシルト									
1.40-1.50	5YR5/6									
1.50-1.60										

試料は10cm間隔

■ バブルウォール (Bw) タイプ

Opx: 斜方輝石

GHo: 緑色普通角閃石

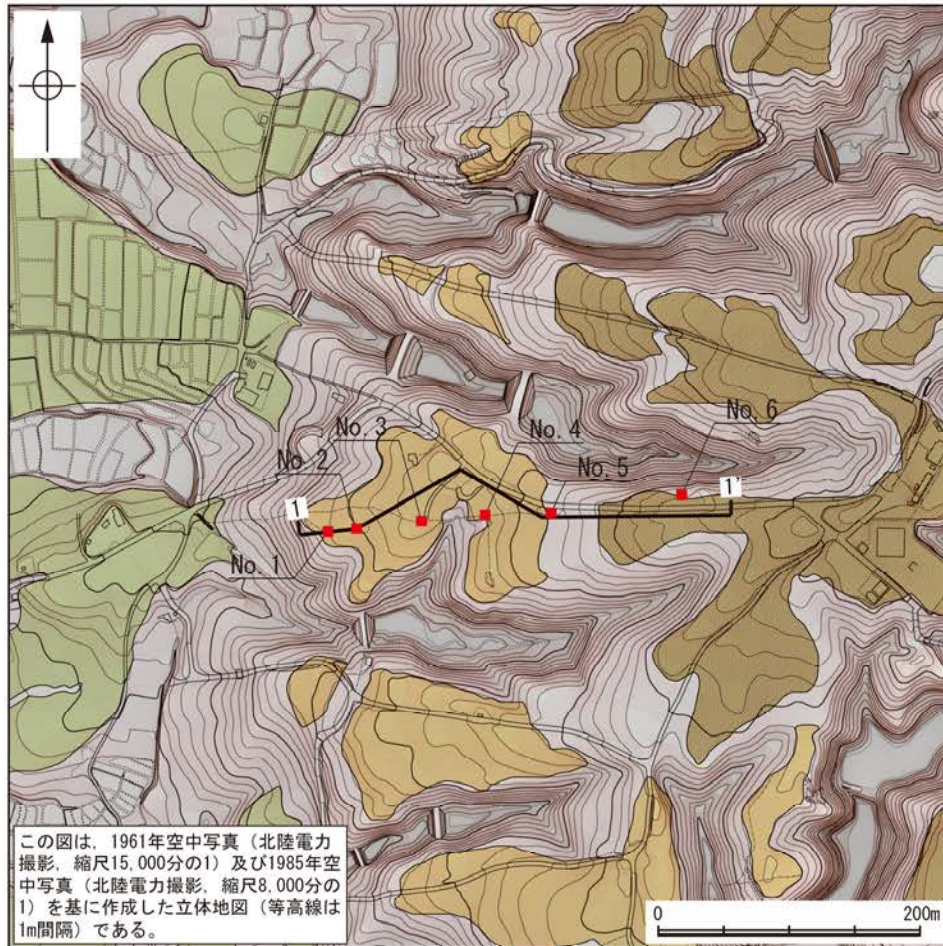
Cum: カンシオン閃石

Count 個数

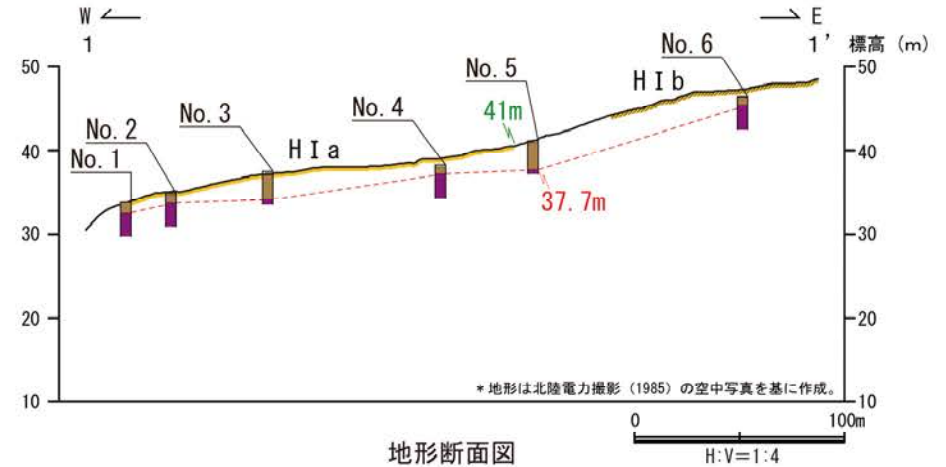
Count 個数

Count 個数

⑩高位段丘 I a面, ⑪高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図

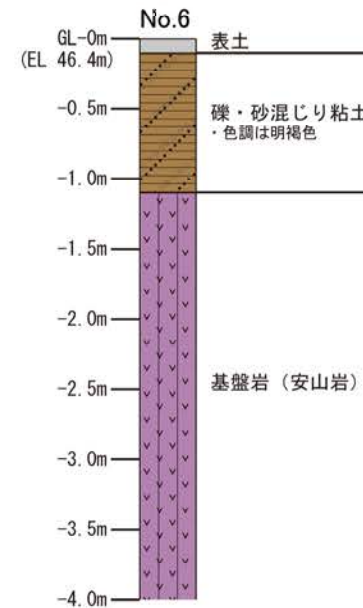
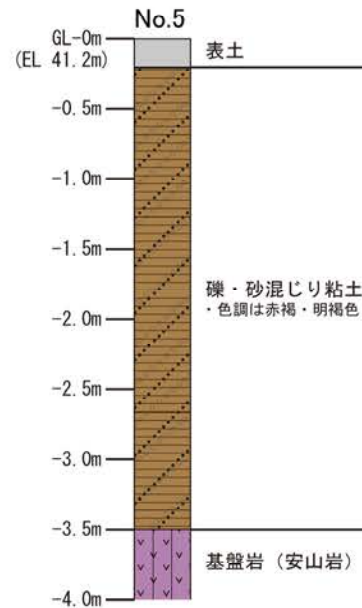
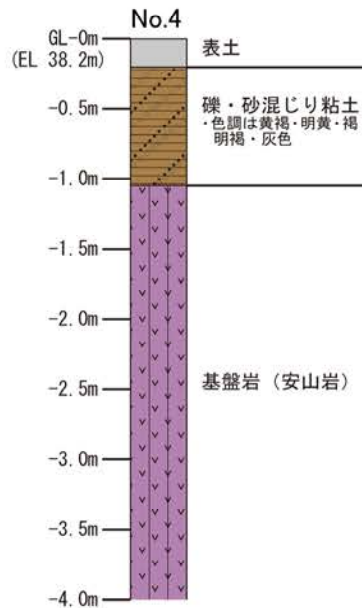
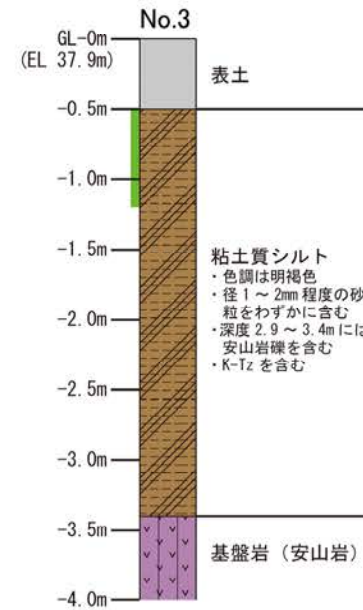
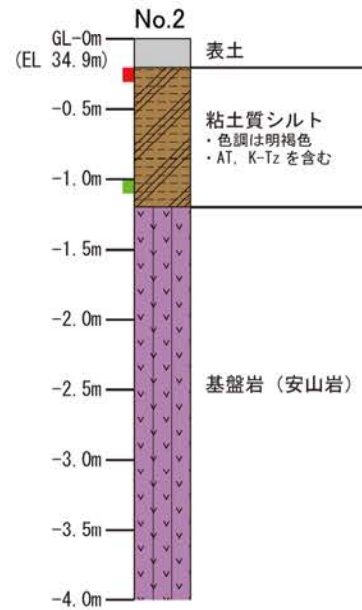
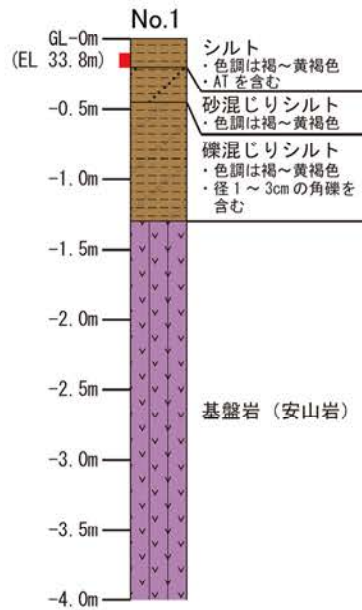


本測線の地質データは、1号機建設前(S60, 61年)にボーリング調査によって取得されており、コアの状況が悪く、海成堆積物の識別が困難である。

凡 例

〔調査位置図〕	〔地形断面図〕
高位段丘 I b面	表土
高位段丘 I a面	陸成堆積物
中位段丘 I 面	基盤岩
No. 1 調査位置	23m 段丘面内縁標高
断面線	20.0m 旧汀線高度

【柱状図】



テフラの年代
(町田・新井, 2011)

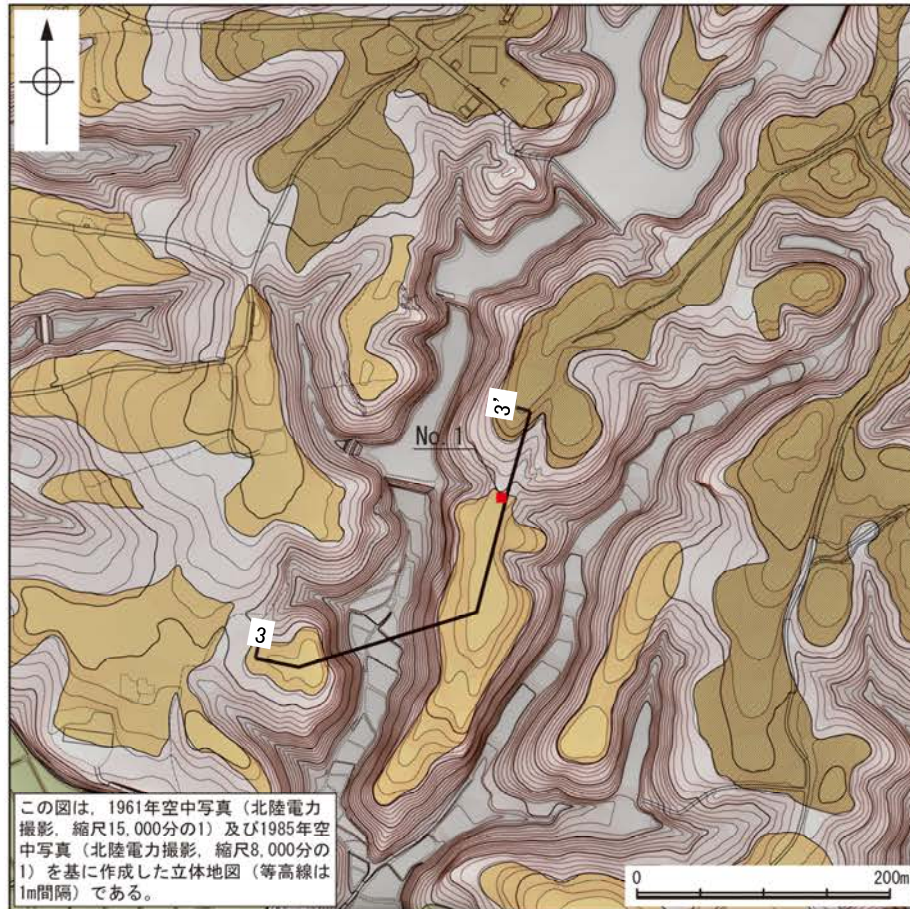
AT: 2.8万～3万年前
K-Tz: 9.5万年前

凡 例



柱状図

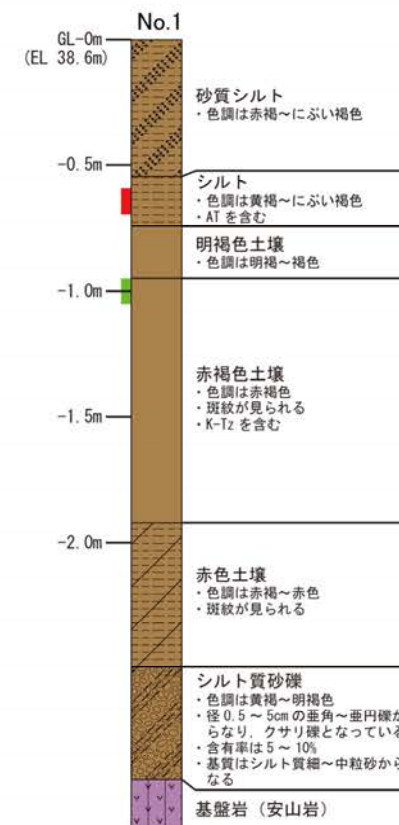
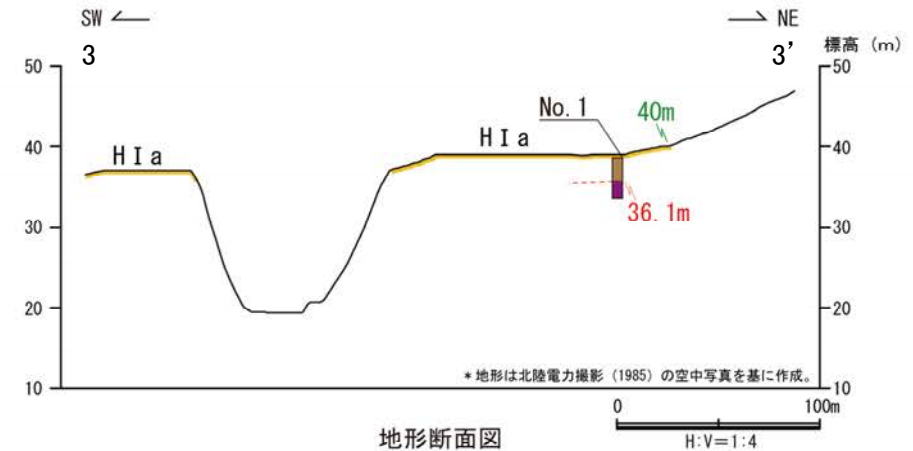
⑫高位段丘 I a面 段丘面調査結果



調査位置図

凡例

〔調査位置図〕	〔地形断面図〕	〔柱状図〕
高位段丘 I b面	陸成堆積物	シルト
高位段丘 I a面	陸成堆積物	礫
中位段丘 I 面	基盤岩	粘土混じり
No. 1 調査位置	23m 段丘面内縁標高	シルト質
1:1 断面線	20.0m 旧汀線高度	基盤岩
		AT
		K-Tz



テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万～3万年前
K-Tz: 9.5万年前

⑬高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図



深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土 色						トラ斑記載		
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色相面積比 (%)		色 相		斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト	
				5 YR	2.5 YR	10 R	赤平均	最大	淡			漸
0.0 - 0.5	I	50										
0.5 - 1.0	II B2g1	80								赤:2.5YR4/8 淡:10YR7/3 (にぶい黄橙) 漸:10YR5/8	上部:斑点状 中・下部: 1cm~3cm間 隔の網目状パ ターン	明 瞭
1.0 - 2.5	II B2g2	100								赤:最大 2.5YR ~10R4/8 平均 2.5YR4/8 淡:7.5YR7/3 (にぶい橙) 漸:10YR5/8	霜降り ロース状	明 瞭
2.5 - 2.5	安山岩		V V V V V V									

柱状図

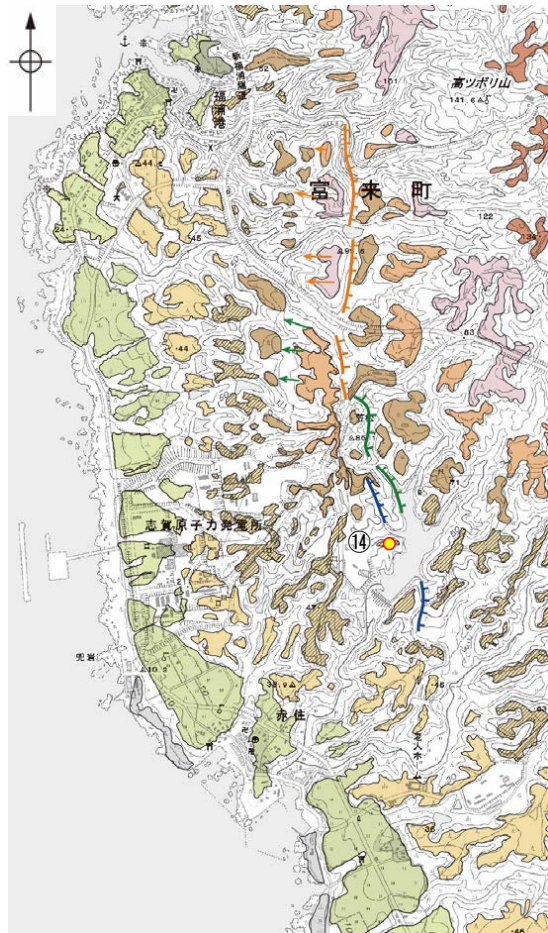


近接写真 (II B2g1)

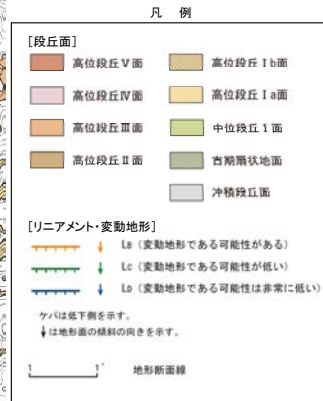


近接写真 (II B2g2)

⑭高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図

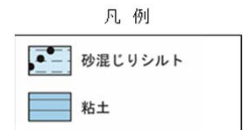


深度 (m)	柱状図	土壌層位 (名称)	土性あるいは地質名	色 調	土壌構造	腐植含量	硬密度	乾 湿	層界の性状	斑 紋	観 察 記 事
0.0	[砂質シルト]	A1	砂質シルト	黒褐 (10YR 3/2)	粒状	多	疎	乾	不明	なし	指圧で指が入る程。非常に縮まりの程度は悪い。
		A2	砂質シルト	にぶい黄褐 (10YR 5/4)	弱垂角塊状	含	疎	半湿	不明	なし	指圧で跡が残る程。縮まりの程度は悪い。
0.5	[砂混じりシルト]	B1	砂混じりシルト	明褐 (7.5YR 5/6)	弱垂角塊状	なし	中	半湿	不明	なし	指圧でわずかに跡が残る程度に比較的縮まっている。
		B2	シルト質粘土	明赤褐 (5YR 4/6) にぶい黄褐 (10YR 6/4-5/4)	中塊状	なし	密	半湿	不明	やや鮮明・まだら	指圧で跡が残らない程。縮まっている。
1.0	[堆積物?]	II B2	シルト質粘土	赤褐 (2.5YR 4/8) にぶい黄橙 (10YR 7/3-6/4)	中~強塊状	なし	密	半湿	不明	鮮明・縦	指圧で跡が残らない程。縮まっている。
1.5											
2.0			シルト質粘土	灰白 (5YR 8/2)							指圧で跡が残らない程。縮まっている。

柱状図



露頭写真



⑮高位段丘 I b面 段丘面調査結果



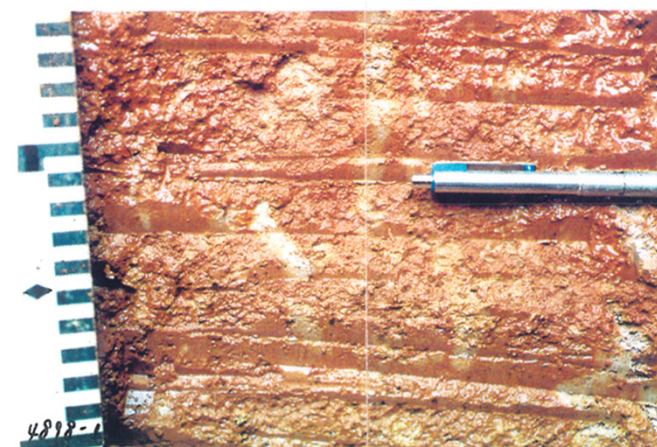
調査位置図

深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土色				トラ斑記載		
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色相面積比 (%)		色相	斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト
				5 YR	2.5 YR	10 R	最大平均			
0.5	I	40								
1.0	II B1g	10								
1.0	II B2g	70 80					赤:2.5YR4.5/8 淡:10YR7/4 漸:7.5YR6/6	水平な横縞卓越 上部は方状~ まだら状	やや明瞭 明瞭	
1.5	III B2g	100 110					赤: 最大2.5YR~ 10R5/8 平均2.5YR5/8 淡:10YR7/1 (灰白) 漸:7.5YR6/6	縦縞状 一部斑点状	明瞭 きわめて明瞭	
2.5	III B3g	70					赤: 最大2.5YR5/8 平均2.5~ 5YR5/8 淡:10YR7/1 漸:7.5YR5/6	まだら状	やや明瞭	
3.0	安山岩		V V V V V							

柱状図



近接写真(II B2g)

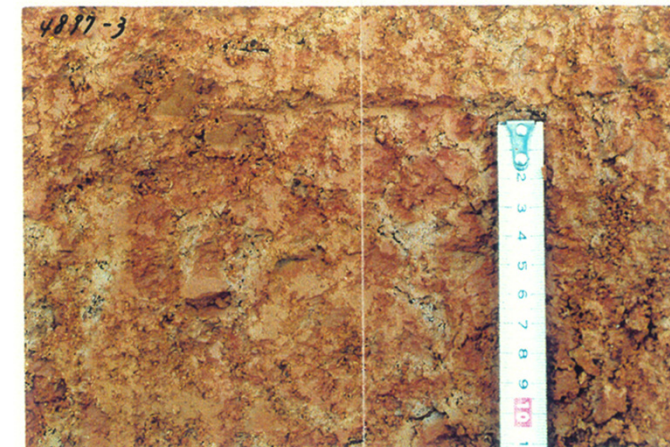
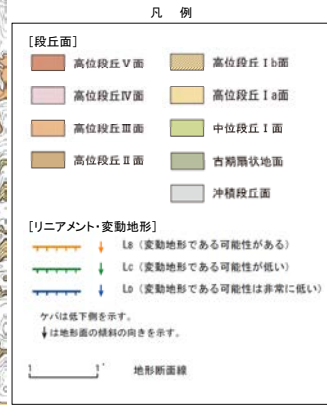


近接写真(III B2g)

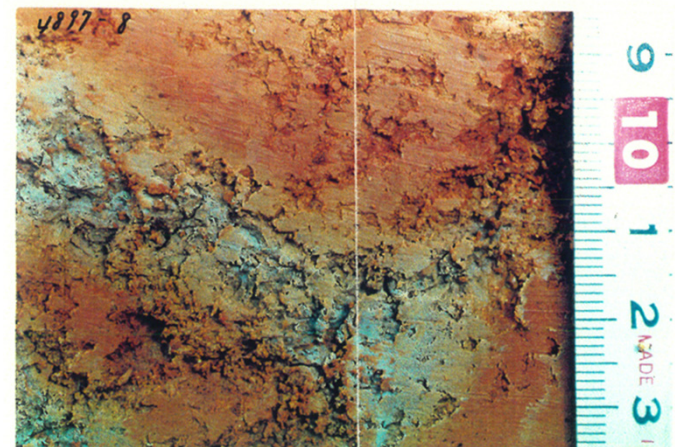
①⑥高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図



近接写真(II B2g)



近接写真(III B2g)

深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土色					トラ斑記載		
	名称	厚さ (cm)		赤色部			色相	斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト		
				5 YR	2.5 YR	10 R				最大赤平均	淡
0.0	I	50									
0.5	II B2g	50					赤:最大2.5YR 4/8 平均2.5~5YR 4/8 淡:7.5YR6/3 (にぶい褐) 漸:7.5YR5/8	径1~3cm長方状斑点状パターン	やや明瞭		
1.0	II B3g	75					赤:最大2.5~5YR4/8 平均5YR4.5/8 淡:7.5YR6/3 (にぶい褐) 漸:7.5YR5/8	やや不鮮明な網目状パターン	不明瞭 やや明瞭		
2.0	III B2g	50+					赤:2.5YR4/8 淡:7.5Y7/1 (灰白) 漸:7.5YR5/8	径5~10cmの角状網目状パターン	明瞭		
2.5	III B3g	70+					赤:最大2.5YR4/8 平均2.5~5YR4/8 淡:7.5Y7/1(灰白) 漸:7.5~10YR6/8	径7~15cmの角状網目状パターン	明瞭		
3.0											
3.5											

柱状図

⑰高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図

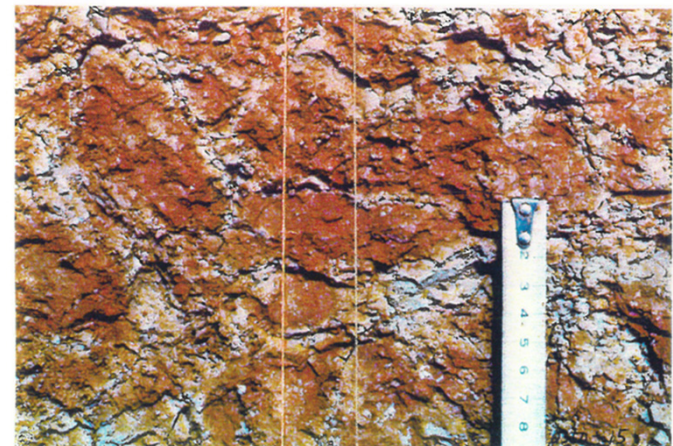


深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土色						トラ斑記載	
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色相面積比 (%)		色相		斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト
				5 YR	2.5 YR	最大赤平均	淡	漸	赤:赤色部		
I		30									
0.5	II	50									
1.0	III B1g	90							赤:5YR4/8 淡:5YR7/2 (明褐灰) 漸:7.5~10YR5/8	径3~5cmのまだら状パターン	やや明瞭
1.5											
2.0	III B2g	70							赤:2.5YR4/8 淡:5YR7/2 (明褐灰) 漸:7.5YR5/8	径3~5cmのまだら状~斑状	やや明瞭
2.5											
3.0	III B3g	65							赤:5YR5/8 淡:10YR6/3 (こぶい黄褐) 漸:7.5YR5/8	径5~15cmの網目状パターン	やや明瞭
3.5	IV B3g	25							赤:2.5YR4/8 淡:10Y7/1(灰白) 漸:7.5YR6/8	径5~10cmの網目状パターン	やや明瞭 明瞭
3.5	IV C	30+									

柱状図



近接写真(III B2g)



近接写真(IV B3g)

⑱高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図



深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土 色						トラ斑記載		
	名称	厚さ (cm)		赤色部			色相面積比 (%)			色 相	斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト
				5 YR	2.5 YR	10 R	最大赤平均	淡	漸			
I		50										
0.5												
II		50										
1.0	III B1g	0 5 50							赤:2.5YR4/8 淡:7.5YR7/4 (にぶい黄橙) 漸:10YR5/8	不透明な大柄網目状	不明瞭	
1.5	III B2g	50							赤:2.5YR4/8 淡:7.5Y7/1 (灰白) 漸:10YR5/7	径5~15cm網目状パターン	明 瞭	
2.0	IV B3g	0 5 40							鉄パン2.5YR~10R4.5/8 赤:2.5YR5/8 淡:7.5YR7/4 (にぶい黄橙) 漸:7.5YR4/6	斑点状~不鮮明な網目状パターン	不明瞭 やや明瞭	
2.5	IV C	50										
3.0	安山岩											
3.5												

柱状図



近接写真(III B2g)

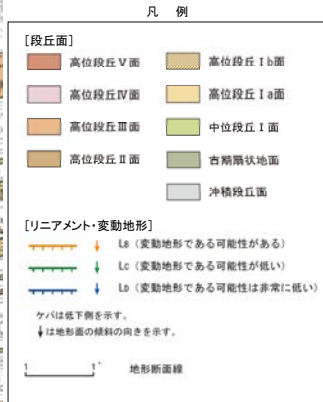


近接写真(IV B3g)

①9 高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



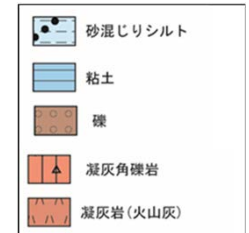
調査位置図



深度 (m)	柱状図	土壌層位 (名称)	土性あるいは地質名	色調	土壌構造	腐植含量	硬密度	乾湿	層界の性状	斑紋	観察記事	分析項目
												火山灰分析結果
0.0 - 0.5	(柱状図記号)	崖堆積物	砂質シルト	暗赤褐 (5YR 3/3)	なし	含	疎	半湿	不明	なし	指圧で跡が残る程度に締まりの程度は悪い。	A00 A01 A02 A03: AT混在 A04
0.5 - 1.0	(柱状図記号)	I B2	シルト質粘土	赤褐 (5YR 4/8) 明褐 (7.5YR 5/8) 灰白 (10YR 7/1)	不明	なし	密	半湿	不明	やや鮮明・まだら	指圧で跡が残らない程、良く締まっている。	A05 A06: K-Tz A07: K-Tz A08
1.0 - 1.5	(柱状図記号)	II-III B2	シルト質粘土	赤褐 (2.5YR 4/8) にぶい黄褐 (10YR 5/4) 灰白 (10YR 7/1)	不明	なし	密	半湿	不明	やや鮮明・まだら	指圧で跡が残らない程、良く締まっている。	A10 A11 A12 A13
1.5 - 2.0	(柱状図記号)	段丘堆積物	砂礫	にぶい赤褐 ~にぶい黄褐 (5YR 4/4 ~ 10YR 5/4)							礫は安山岩のくさり礫 (径 1-3cm) からなり、基質は砂質シルトである。指圧で跡が残らない程、良く締まっている。	A14 A15
2.0 - 2.5	(柱状図記号)	穴水露層	凝灰角礫岩	灰黄褐 (10YR 4/2)							全体的に強風化している。深度 1.75-2.25m は、水分を多く含み、非常にゆるくなっている。	A16
2.5 - 3.0	(柱状図記号)			にぶい黄褐 (10YR 4/3)								

柱状図

凡例



テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前

火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)		β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
	Bw	Pm	O	Opx	Gho				
A00	25	0	0	2	2	0.7			
A01	9	0	0	1	2	0.3			
A02	18	0	0	3	6	0.8			
A03	42	0	0	4	11	0.7		1.4968-1.4999	AT混在
A04	26	0	0	2	8	1			
A05	16	0	0	2	4	2			
A06	0	0	0	2	4	2.5			
A07	0	0	0	0	0	1.4			K-Tz
A08	0	0	0	0	0	0.9			
A10	0	0	0	0	0	1.6			
A11	0	0	0	0	0	0.8			
A12	0	0	0	0	0	0.1			
A13	0	0	0	0	0	0.1			
A14	0	0	0	0	0	0			
A15	0	0	0	0	0	0			
A16	0	0	0	0	0	0			

Bw: パブルウォールタイプ
Pm: ハミスタイプ
O: 板発地タイプ
Opx: 斜方輝石 Gho: 緑色普通角閃石



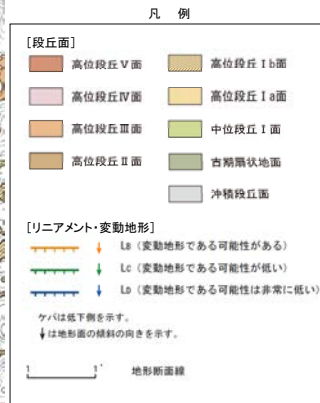
コア写真

* 深度 0.0~0.27m は、コアサンブラーの打撃により圧縮されているため、見掛け上コアが欠如している。

②⑩ 高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果

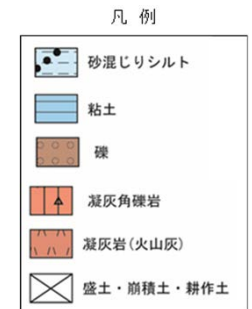


調査位置図



深度 (m)	柱状図	土壌層位 (名称)	土性あるいは地質名	色 調	土壌構造	腐植含量	硬 度	乾 湿	層界の性状	斑 紋	観 察 記 事
0.0	表土	腐植質シルト	暗褐 (10YR 3/4)								
0.5	I R2	砂混じりシルト	褐 (7.5YR 4/4)	弱塊状	なし	密	半湿	不明	なし		指圧で跡が残らない程、良く締まっている。下位との境界は漸移的である。
1.0	II B2	シルト質粘土	赤褐 (5~2.5YR 4/8) にぶい褐 (7.5YR 5/4)	中塊状	なし	密	半湿	不明	やや鮮明・まだら		指圧で跡が残らない程、良く締まっている。希に、安山岩の亜角礫 (径0.5mm程度) を含む。
1.5	段丘堆積物	砂礫	黄褐 (10YR 5/6)								礫は安山岩のくさり礫 (径4cm以上) からなり、基質は細粒~中粒砂である。
2.0	穴水泉層	凝灰角礫岩	黄褐~赤褐 (10YR 5/6 ~ 2.5YR 4/6)								全体的に強風化している。

柱状図

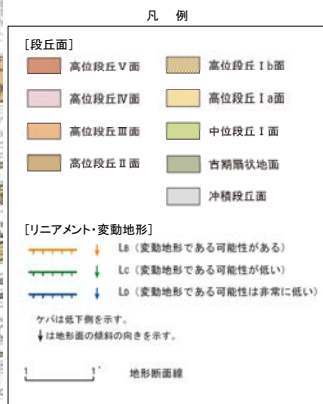


コア写真

②1 高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



調査位置図

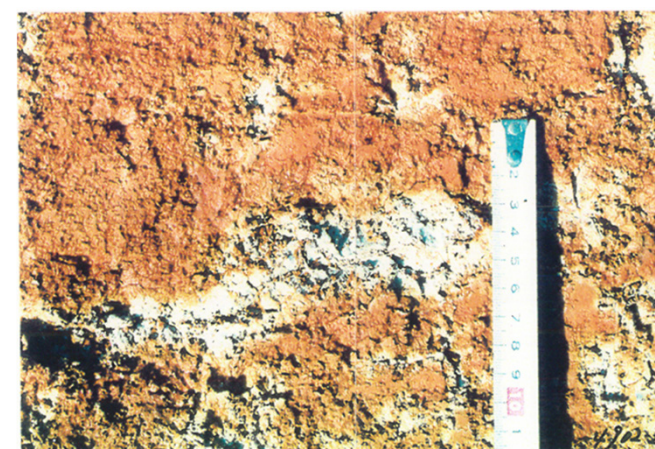


深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土 色				トラ斑記載		
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色相面積比 (%)		色 相	斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト
				5 YR	2.5 YR	10 R	最大平均			
0.5	I	65								
1.0	II B2g	40					赤:最大2.5YR4/8 (皮膜) 平均2.5~5YR 3/6 淡:2.5Y7/3(浅黄) 漸:10~7.5YR5/8	径1~3cmの斑点状	やや明瞭	
1.5	II B3g	65 80					赤:最大2.5YR4/8 平均5YR4/8 淡:7.5Y7/1(灰白) 漸:7.5~10YR5/8	径3cm~5cmの斑状~網目状	明 瞭	
2.0	III B2g	65 100					赤:最大2.5YR~10R4/8 平均2.5YR4/8 淡:10Y7/1 (灰白) 漸:7.5YR5/8	径5cm~10cmの大柄なまだら~網目状	きわめて明 瞭	
2.5	安山岩		V V V							
3.0										

柱状図

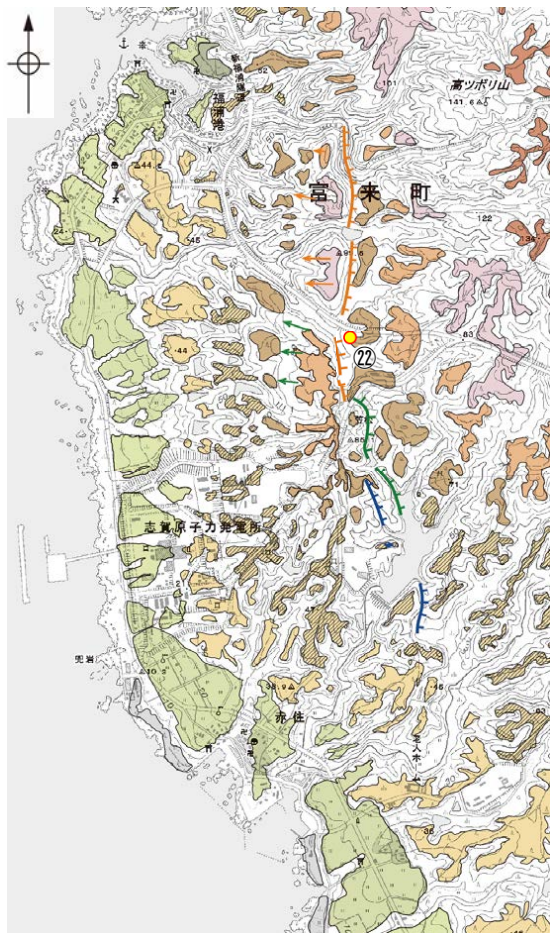


近接写真(ⅡB2g)

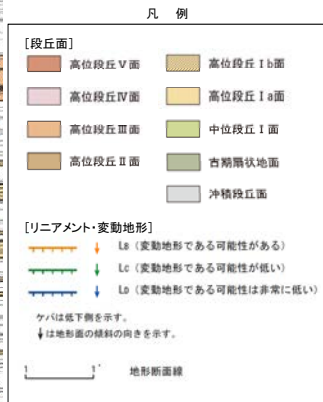


近接写真(ⅢB2g)

②② 高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



調査位置図



深度 (m)	柱状図	土壌層位 (名称)	土性あるいは地質名	色 調	土壌構造	腐植含量	硬密度	乾 湿	層界の性状	斑 紋	観 察 記 事
0.0		表土	腐植質シルト 砂質シルト	黒褐 (2.5Y 3/2) にぶい黄 (2.5Y 5/3)	不明	なし	疎	半湿	不明	なし	指圧で指が入る程。非常に締まりの程度は悪い。
0.5		I B1	砂混じりシルト	明褐 (7.5YR 5/6)	不明	なし	中	半湿	不明	なし	指圧でわずかに跡が残る程度に比較的締まっている。
1.0		I B2	シルト質粘土	赤褐 (5YR 4/8) 明黄褐 (10YR 6/6)	不明	なし	密	半湿	不明	やや鮮明・横	指圧で跡が残らない程。締まっている。
1.5		II B2	シルト質粘土	赤褐 (5~2.5YR 4/8) 明黄褐 (10YR 6/6)	不明	なし	密	半湿	不明	やや鮮明・縦	指圧で跡が残らない程。締まっている。下位との境界は漸移的である。
2.0		III B2	シルト質粘土	赤褐~赤 (2.5YR~10R 4/8) にぶい黄褐 (10YR 7/2)	不明	なし	密	半湿	不明	鮮明・横	指圧で跡が残らない程。締まっている。下部で希に、安山岩のくさり礫 (径2cm程度) を含む。
2.5		段丘堆積物	砂礫	赤褐 (2.5YR 4/6)							礫は安山岩のさくり礫 (径2~5cm, 最大径25cm) からなり、基質はシルト質細粒砂で、指圧でわずかに跡が残らない程度に比較的締まっている。
3.0		穴水累層	安山岩	灰オリーブ (7.5YR 4/2)							

柱状図

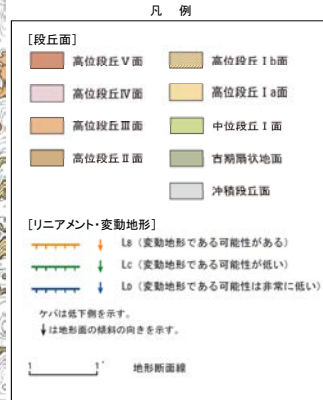


コア写真

②③高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果

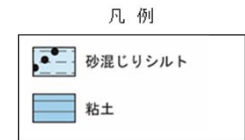


調査位置図



深度 (m)	柱状図	土壌層位 (名称)	土性あるいは地質名	色 調	土壌構造	腐植含量	硬密度	乾 湿	層界の性状	斑 紋	観 察 記 事
0.0	[砂混じりシルト]	A1	砂質シルト	黒褐 (2.5Y 3/2)	不明	含	疎	乾	不明	なし	指圧で指が入る程、非常に締まりが悪い。
0.1		A2	砂質シルト	にぶい黄～黄褐 (2.5Y 6/3-5/3)	不明	含	中	乾	不明	なし	指圧でわずかに跡が残る程度に比較的締まっている。
0.5	[粘土]	B1	砂混じりシルト	褐 (7.5YR 4/6)	不明	なし	中	半湿	不明	なし	指圧でわずかに跡が残る程度に比較的締まっている。
1.0		B2	シルト質粘土	赤褐 (5YR 4/6) 黄褐 (10YR 5/6)	不明	なし	密	半湿	不明	不明瞭～やや鮮明・まだら	指圧で跡が残らない程、締まっている。希に、径1mm以下の白色粒子を含む。
1.5	[粘土]	II B2	シルト質粘土	赤褐 (2.5-5YR 4/6) にぶい黄橙 (10YR 6/4)	不明	なし	密	半湿	不明	鮮明・まだら	指圧で跡が残らない程、締まっている。希に、径1mm以下の白色粒子を含む。
2.0		II B3	シルト質粘土	明赤褐 (5YR 5/8) にぶい黄橙 (10YR 6/4)	不明	なし	密	半湿	不明	やや鮮明・まだら	指圧で跡が残らない程、締まっている。希に、安山岩の歪角礫 (径5mm程度) を含む。
3.0	[粘土]	III B2	シルト質粘土	赤褐～赤 (2.5YR-10R 4/6) にぶい黄橙 (10YR 6/4)	不明	なし	密	半湿	鮮明・縦	なし	指圧で跡が残らない程、締まっている。希に、径1mm以下の白色粒子を含む。
4.0											

柱状図



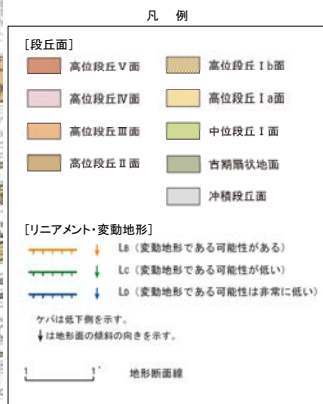
コア写真

*深度0.0～0.1mは、コアサンブラーの打撃により圧縮されているため、見掛け上コアが欠如している。

②4 高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果

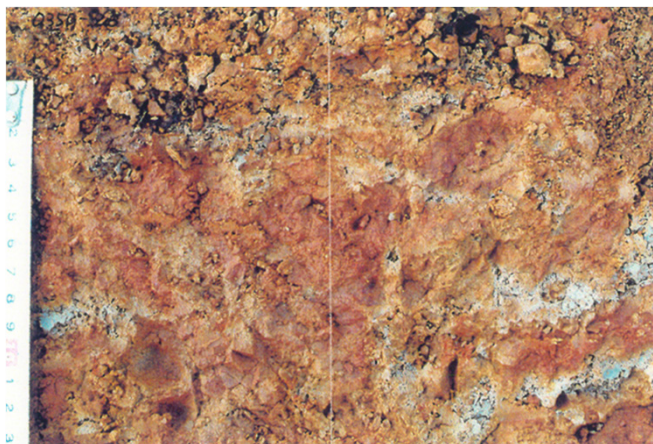


調査位置図

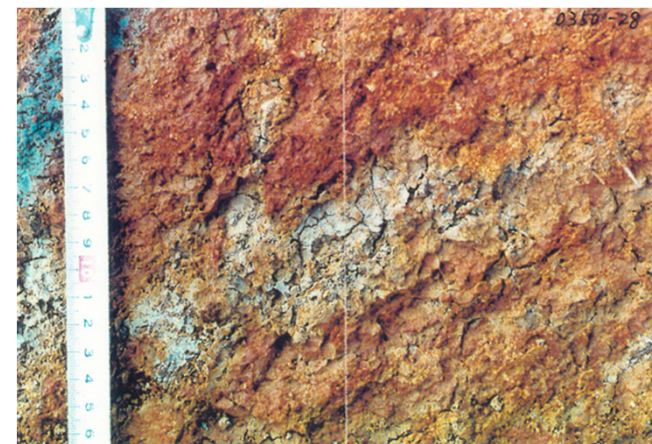


深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土色				トラ斑記載		
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色相面積比 (%)		色相	斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト
				5 YR	2.5 YR	10 R	最大平均			
I		40								
0.5	II BC	30								
1.0	III B1g	30					赤: 5YR3/6 淡: 7.5YR6/3 (にぶい褐) 漸: 7.5YR5/8	径2~5cmの斑状~網目状	やや明瞭	
1.5	III B2g	55					赤: 2.5YR4/8 (キュータンあり) 淡: 7.5YR6/2 (灰褐) 漸: 7.5~10YR5/8	上部: 水平縞状 中・上部: まだら状	やや明瞭	
2.0	III B3g	95					赤: 2.5YR4/8 淡: 7.5YR7/2 (明褐灰) 漸: 7.5~10YR5/6	不透明な大柄網目状	不明瞭	
2.5	IV B3g	50					鉄バン: 10R4/8 赤: 2.5YR~10R4/8 淡: 5YR7/2 (明褐灰) 漸: 10YR5/8	黄色がかった不明瞭な部分が多い	不明瞭 やや明瞭	
3.0	安山岩		V V V V V V				2.5YR~10R4/8 が斑状に分布			
3.5										

柱状図



近接写真(ⅢB2g)



近接写真(ⅣB3g)

②6 高位段丘Ⅲ面 段丘面調査結果



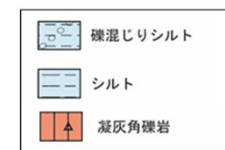
調査位置図



深度 (m)	断面	土壌層位		土性 あるいは 地質名	土色	土壌構造	腐植 含量	硬 密度	乾 湿	層界 の性 状	石 礫	斑 紋	観 察 記 事	分析項目
		名称	厚さ (cm)											火山灰分析
0.0		表土	10	砂質シルト	黒褐 (7.5YR 3/2)	粒状	含	疎	半 湿	平 坦			指圧で指が入る程、締まりは悪い。	AT+K-Tz混在 (一部K-Ah含む) (0.0-1.0m)
0.1-0.2		崖錐堆積物	40	シルト	明褐 (7.5YR 5/6)	弱塊状	なし	密	半 湿	平 坦			指圧でわずかに跡が残る程に、比較的締まっている。	
0.2-0.3			50	礫混じりシルト	赤褐 (5YR 4/6)	不明	なし	密	半 湿				比較的新鮮な安山岩の角礫(径5~15cm)を含む。指圧でわずかに跡が残る程に、比較的締まっている。	
1.0		累層 穴層	50	凝灰角礫岩	赤褐								ねじり鎌で割れる程度に強風化している。基質は粘土化し、赤褐色を呈す。	
2.0														
3.0														

※断面の左側に打点した黒丸は火山灰試料採取層準を示す。

柱状図



遠景写真



近景写真

火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)	重鉱物の含有量(/3000粒子)						β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
		Bw	Pm	O	Opx	GHo	Cum				
0.0-0.1	表土	45	0	0.5	22	16	0	1.5			AT+K-Tz混在 (一部K-Ah含む)
0.1-0.2		50	0	2	18	10	0.1	2.2			
0.2-0.3	崖錐堆積物	43	0	0	13	13	0.2	2.9			
0.3-0.4		69	0	1	8	16	0.3	1.7	1.495-1.501		
0.4-0.5		58	0	1	17	19	0	2.3			
0.5-0.6		16	0	0	3	6	0	1.2			
0.6-0.7		32	0	0	1.5	5.5	0	1.2	1.496-1.501 (1.511含む)		
0.7-0.8		6	0	1	0.3	0.8	0	0			
0.8-0.9		1.8	0	0.1	0.4	0.3	0	0			
0.9-1.0		3	0	0.2	0.2	0.5	0	0	1.496-1.500 (1.510含む)		

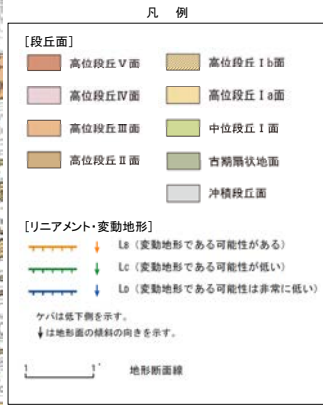
Bw: パブルウォールタイプ
Pm: バミスタタイプ
O: 低発泡タイプ

Opx: 斜方輝石 GHo: 緑色普通角閃石 Cum: カミングトン閃石

②7 高位段丘Ⅲ面 段丘面調査結果



調査位置図

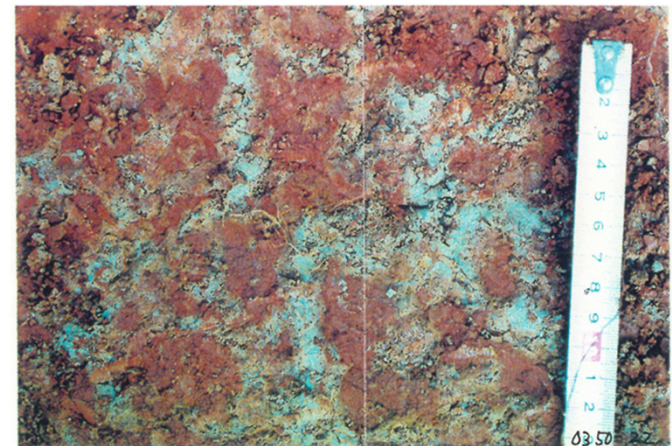


深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土色				トラ斑記載		
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色相面積比 (%)		色相	斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト
				5 YR	2.5 YR	10 R	最大赤平均			
I		40								
0.5	II	30								
1.0	ⅢB1g	60					赤:2.5YR~10R 5/8 淡:10YR6/1褐灰 漸:7.5~ 10YR5/8	径20cm~30cm の網目状とその 内部に数cmオー ダーのまだら状 パターン	明瞭	
1.5	ⅢB2g	100					赤:10R4/8 淡:7.5YR7/1 (明褐灰) 漸:7.5YR7/6 橙	霜降りロース 状	きわめて明瞭	
2.0										
2.5	安山岩		V V V V V V							

柱状図

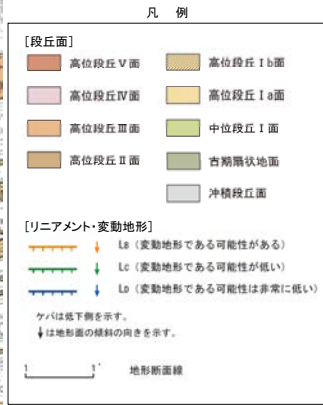


近接写真(ⅢB1g)



近接写真(ⅢB2g)

②⑧ 高位段丘Ⅲ面 段丘面調査結果

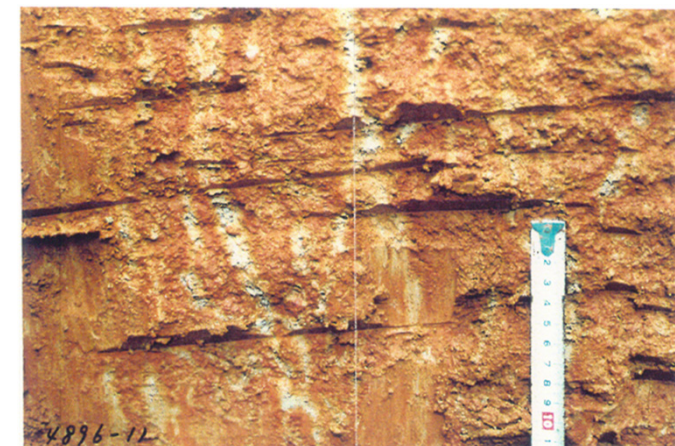


深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土 色					トラ斑記載			
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色相面積比 (%)		色 相		斑紋の配列パターン	斑紋のコントラスト	
				5 YR	2.5 YR	赤 最大平均	淡 漸	赤 赤部 赤部 赤部 淡 漸 淡 漸 淡 漸	赤 赤部 赤部 赤部 淡 漸 淡 漸 淡 漸			
0.5	II B1g	30 40								赤:2.5YR4/8 淡:2.5Y7/2(灰黄) 漸:7.5~10YR5/8	1cm~2cmの水平網目状	明瞭
1.0	II B2g	60								赤:2.5YR~10R4/8 淡:10YR7/2 (にぶい黄橙) 漸:7.5~10YR5/6	縦方向の網目状	明瞭
1.5	II B3g	40								赤:最大2.5YR~10R4/8 平均2.5YR4/8 淡:10YR6/4 (にぶい黄) 漸:7.5YR6/6	細脈状網目状	やや不明瞭
2.0	III B2g									赤:10R5/8 淡:5YR7/2 (明褐灰) 漸:10YR8/6	霜降りロース状~角状網目状	明瞭 きわめて明瞭
2.5	III Bcg									10R5/8		
3.0												

柱状図

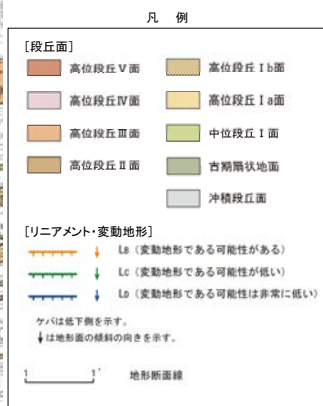


近接写真(ⅢB2g)



近接写真(ⅡB3g)

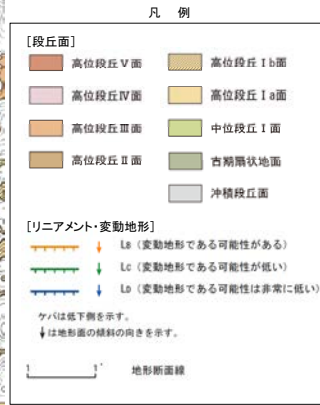
②9 高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土 色				トラ斑記載	
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色相面積比 (%)		色 相	
				5 YR	2.5 YR	最大赤平均	淡 漸	赤 赤 赤 淡 淡 漸 漸 漸 変 部 部 部	斑紋の配列パターン
0.5	I	45							
1.0	III Bgu	50	斜線		赤:2.5YR~ 10R5/8 漸:7.5YR6/6			明瞭	
1.5	III Bgl	30	斜線						
2.0	IV B1g	35	斜線						
2.5	IV B2g	65	斜線		赤:10R5/8 淡:5YR6/4 (にぶい橙)			明瞭	
3.0	45+		V V V V V V						
3.5									

柱状図

③⑩高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



調査位置図



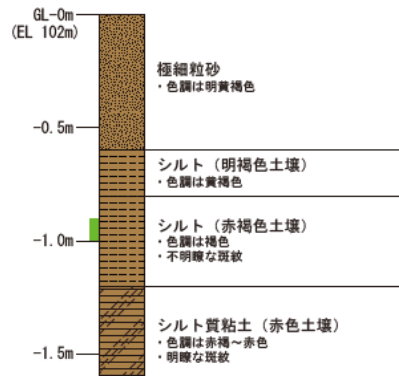
露頭写真

火山灰分析結果

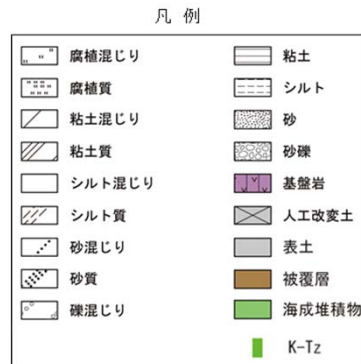
試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
	Bw	Pm	O	Opx	GHo	Cum				
0.0-0.1	240	0	16	13	66	0	3			AT+K-Tz混在
0.1-0.2	362	0	6	15	73	2	5	1.496-1.500		
0.2-0.3	292	0	7	20	47	1	5			
0.3-0.4	269	0	8	4	39	1	4			
0.4-0.5	271	0	4	16	76	3	5			
0.5-0.6	243	0	7	16	90	1	8			
0.6-0.7	60	0	2	10	44	0	7	1.496-1.501		
0.7-0.8	9	0	0	1	28	1	10			
0.8-0.9	5	1	0	0.6	13	0	9			
0.9-1.0	0	0	0	0	0.6	0	13			
1.0-1.1	0.4	0	0	0	0.8	0	9			
1.1-1.2	0	0	0	0	1	0	4			
1.2-1.3	0	0	0	0	0.6	0	6			
1.3-1.4	2	0	0	0	0	0	4			
1.4-1.5	0	0	0	0	0.7	0.3	5			
1.5-1.6	1	0	0	0	0.4	0.4	4			

Bw: バブルウォールタイプ
Pm: バラストタイプ
O: 低発泡タイプ

Opx: 斜方輝石 GHo: 緑色普通角閃石 Cum: カミントン閃石



柱状図



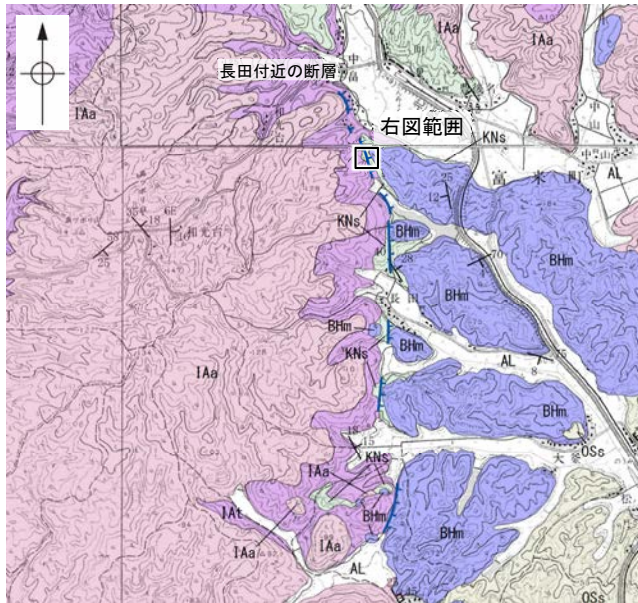
補足資料2. 2-2

敷地近傍のその他の断層等の地質調査データ

(1) 長田付近の断層 表土はぎ調査

長田付近の断層 表土はぎ調査 写真位置図

○リニアメント・変動地形を判読した鞍部を横断して表土はぎ調査を実施した結果、表土はぎ調査範囲には、断層は認められない。また、リニアメント・変動地形近傍において、穴水累層と草木互層の不整合面を確認した。
○全線の写真を次頁以降に示す。



調査位置図

凡例

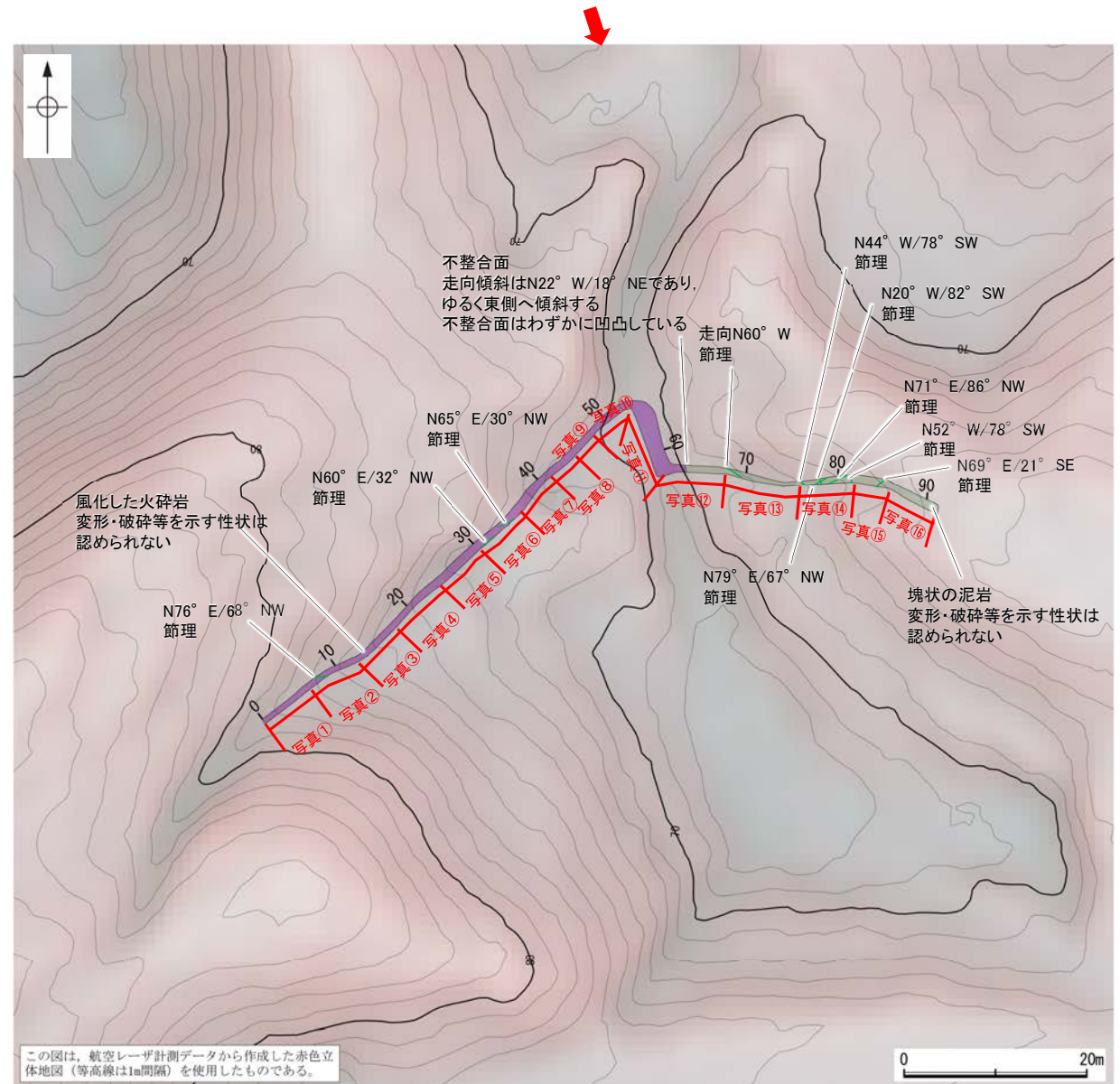
〔地質〕	
地質時代	地層・岩石名
第四紀	AL 沖積層
更新世	OSD 古砂丘砂層
	OF 古期扇状地堆積層
	M1 中位段丘1面堆積層
新中世	OSa 出露石灰質砂岩層 (非石灰質部)
新世	BHn 浜田泥岩層
第三紀	KNs 草木互層
白垩紀	IAa 穴水累層 安山岩
	IAT 穴水累層 安山岩質火砕岩 (凝灰角礫岩)
	IAT 穴水累層 安山岩質～石英安山岩質火砕岩 (凝灰岩)

〔記号〕	
20° / 43°	地層の走向・傾斜
20° / 43°	節理の走向・傾斜

〔リニアメント・変動地形〕	
Ld	(変動地形である可能性は非常に低い) ケバは低下側を示す。

凡例

	草木互層
	穴水累層 安山岩質火砕岩 (凝灰角礫岩)
	節理
	リニアメント・変動地形



表土はぎ調査結果

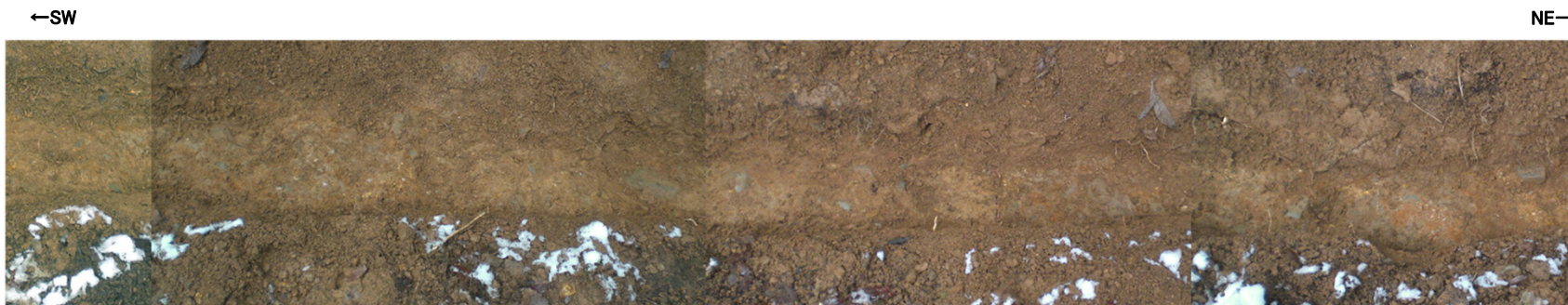


写真①



写真②





写真③



写真④





写真⑤



写真⑥





写真⑦



写真⑧





写真⑨



写真⑩





写真⑪

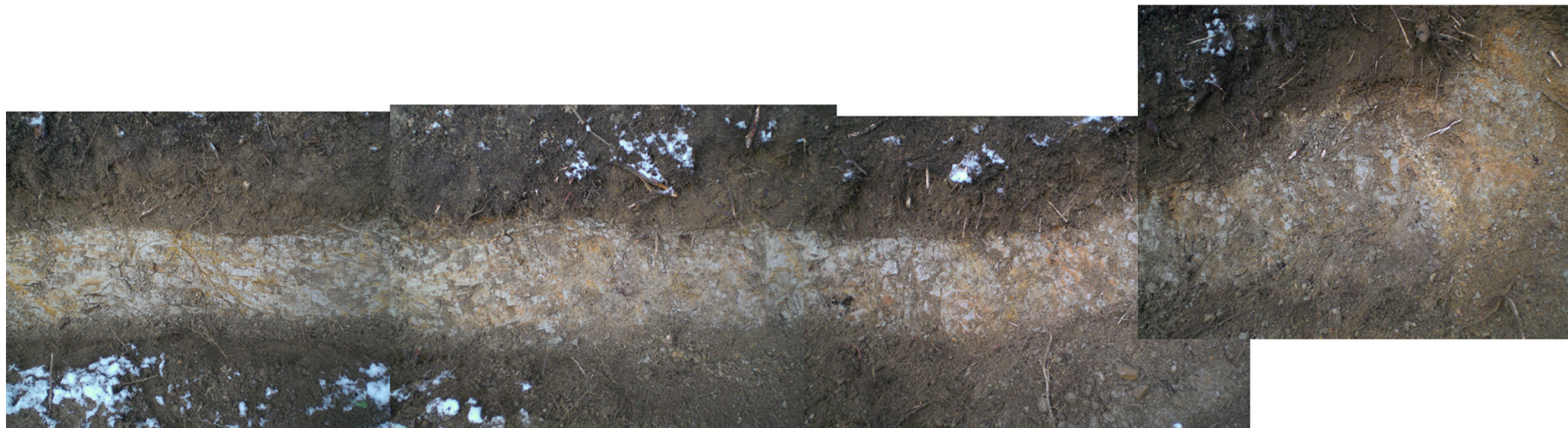


写真⑫



←W

E→



写真⑬

←W

E→



写真⑭

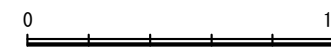




写真⑮

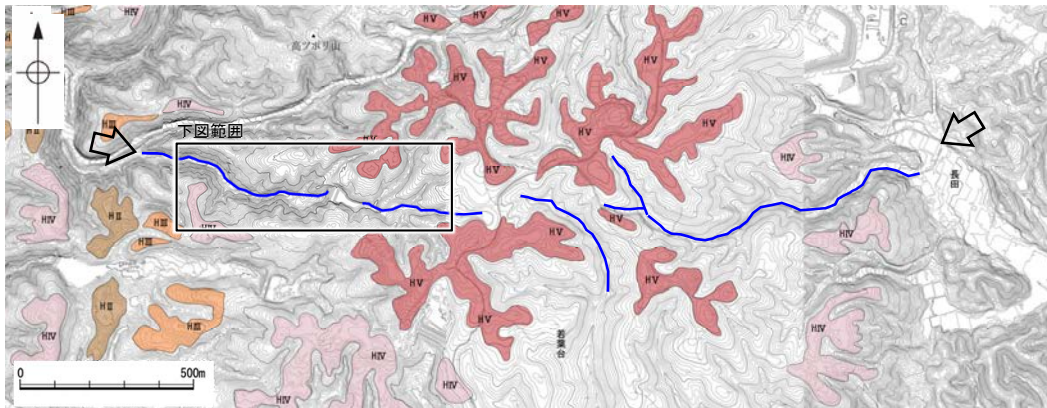


写真⑯

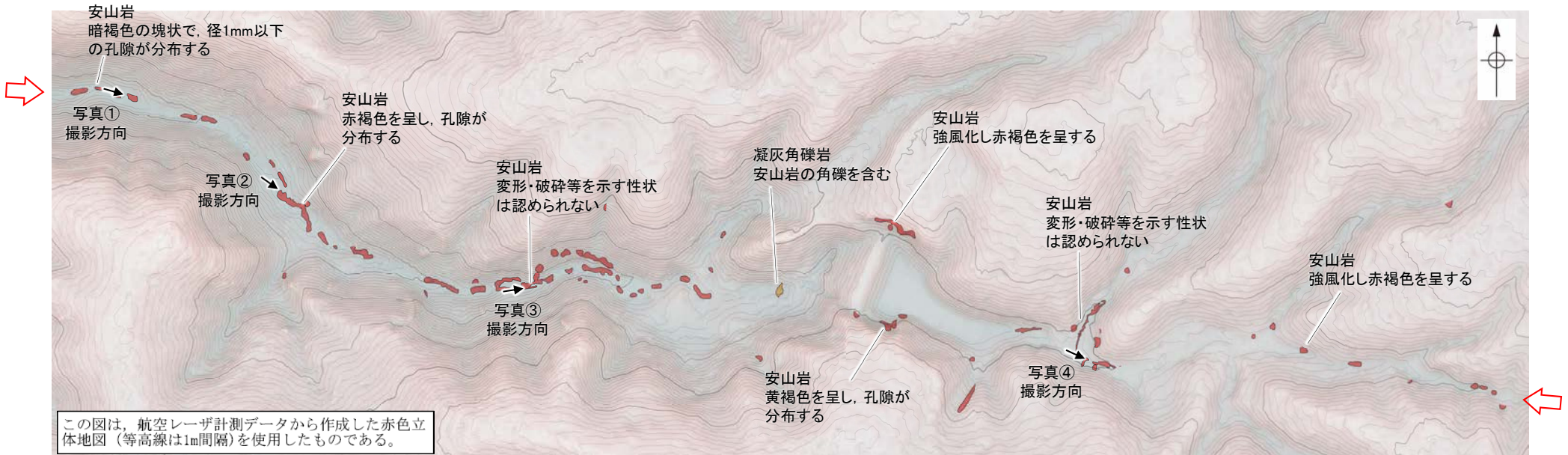
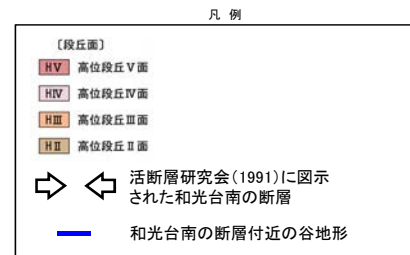


(2) 和光台南の断層 地表踏査

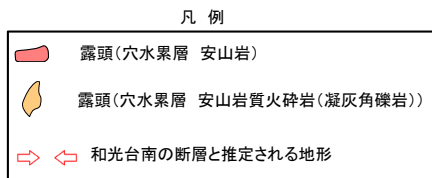
○和光台南の断層と推定される位置の沢部で地表踏査を実施した結果、断続的に露出した穴水累層の安山岩は非破碎であり、断層は認められない。
○地表踏査実施箇所の写真を次頁に示す。



地形図



地表踏査結果(ルートマップ)





写真①



写真②



写真③



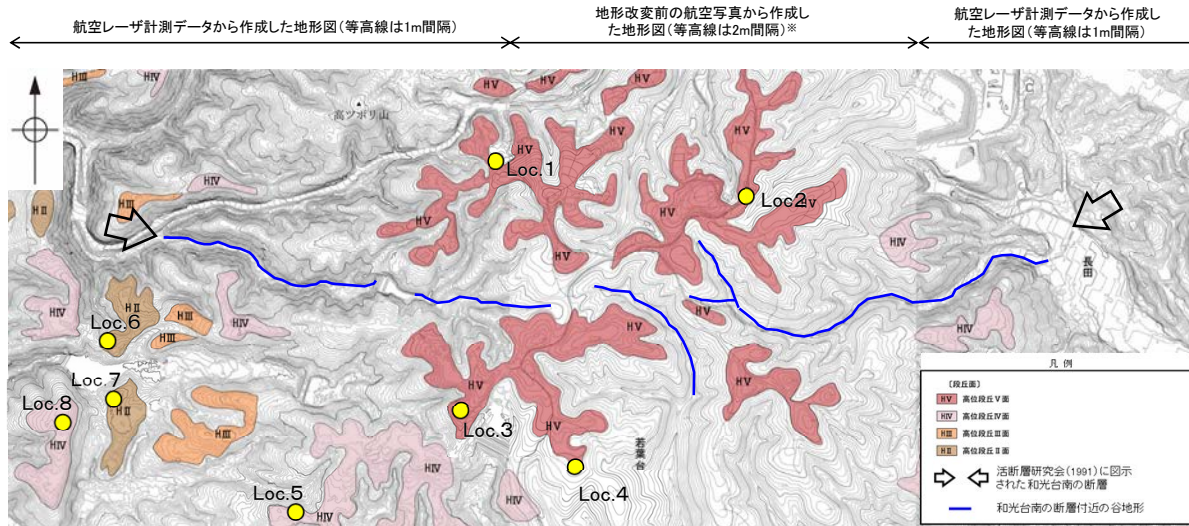
写真④

(3) 和光台南の断層周辺 段丘面調査

和光台南の断層 段丘面調査

○和光台南の断層周辺には、高位段丘面(Ⅱ面, Ⅲ面, Ⅳ面, Ⅴ面)が分布している。

○これらの高位段丘面上において、露頭調査, コアサンプラー調査を実施し、これらの地形面が十分に古いことを示す土壌(火山灰含む)の有無を確認した。



地形図

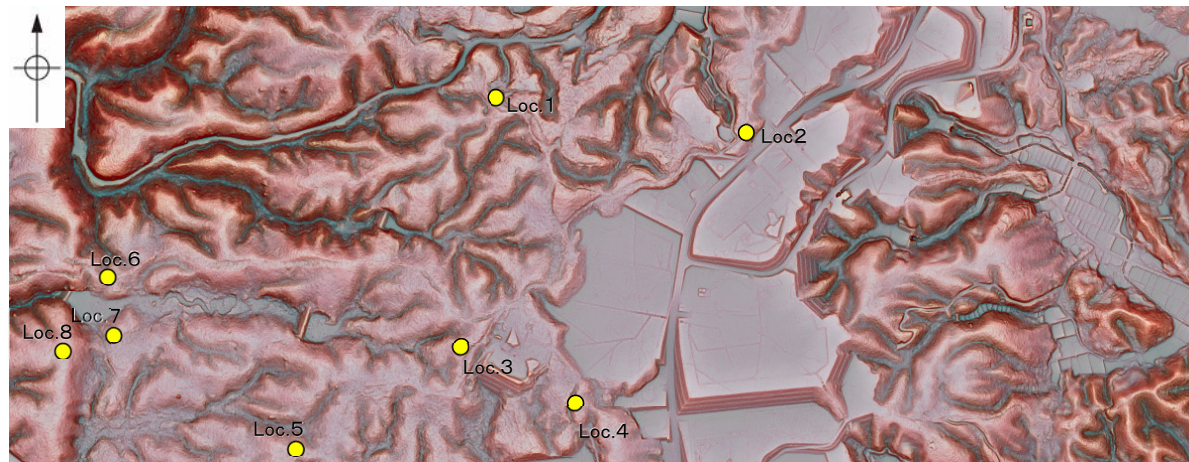
※: 地形改変前の航空写真(国土地理院発行(S38), 縮尺1万分の1)から作成した。

調査地点	段丘面区分	調査方法	土壌(火山灰)
Loc.1	高位段丘Ⅴ面	露頭調査	赤色土壌あり(-)
Loc.2	高位段丘Ⅴ面	コアサンプラー調査	赤褐色土壌あり(-)
Loc.3	高位段丘Ⅴ面	露頭調査	赤色土壌あり(K-Tz)
Loc.4	高位段丘Ⅴ面	露頭調査	赤色土壌あり(-)
Loc.5	高位段丘Ⅳ面	露頭調査	赤色土壌あり(K-Tz)
Loc.6	高位段丘Ⅱ面	コアサンプラー調査	赤色土壌あり(K-Tz)
Loc.7	高位段丘Ⅱ面	コアサンプラー調査	赤色土壌あり(-)
Loc.8	高位段丘Ⅳ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)

テフラの年代(町田・新井, 2011)

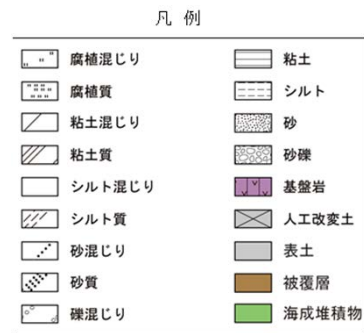
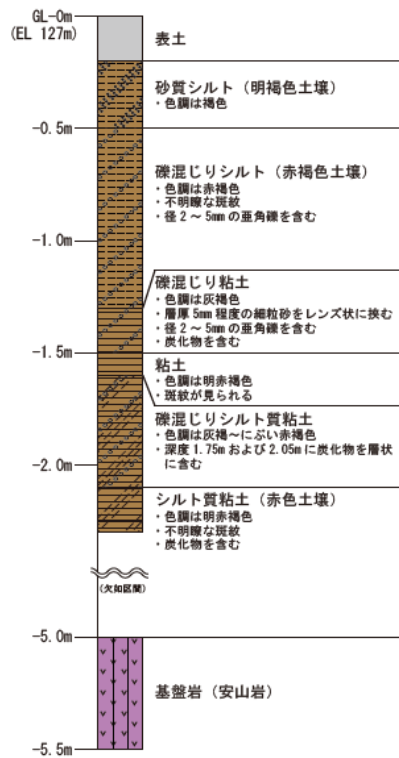
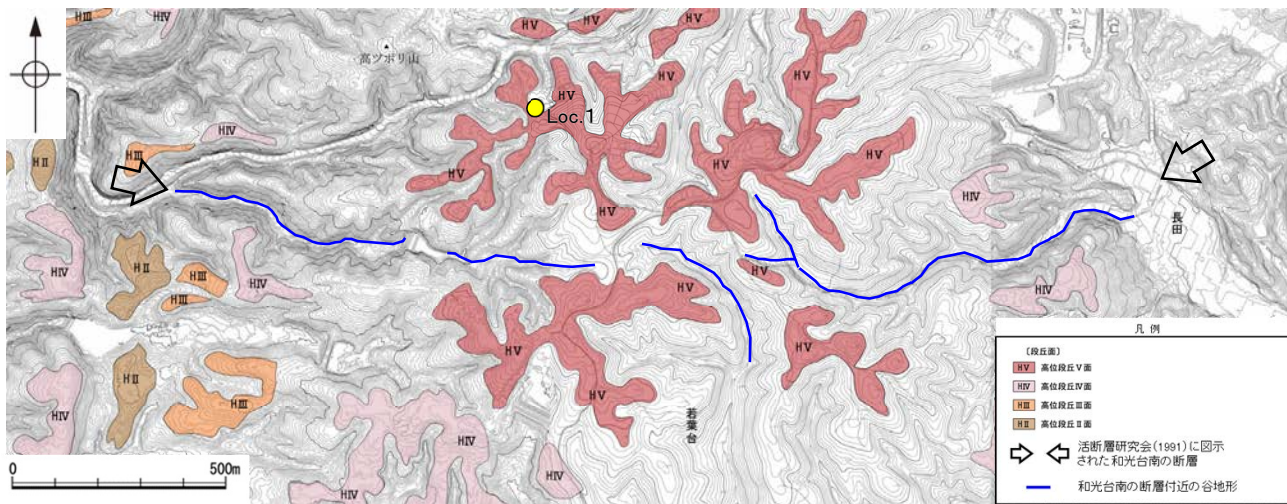
K-Tz: 9.5万年前

-: 分析未実施

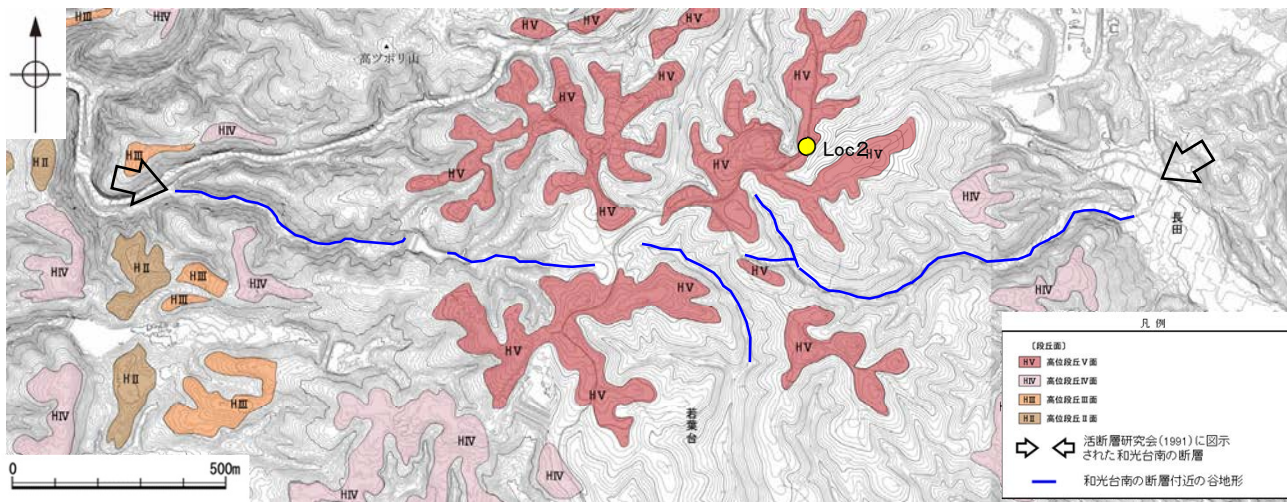


赤色立体地図
(航空レーザー計測データにより作成)

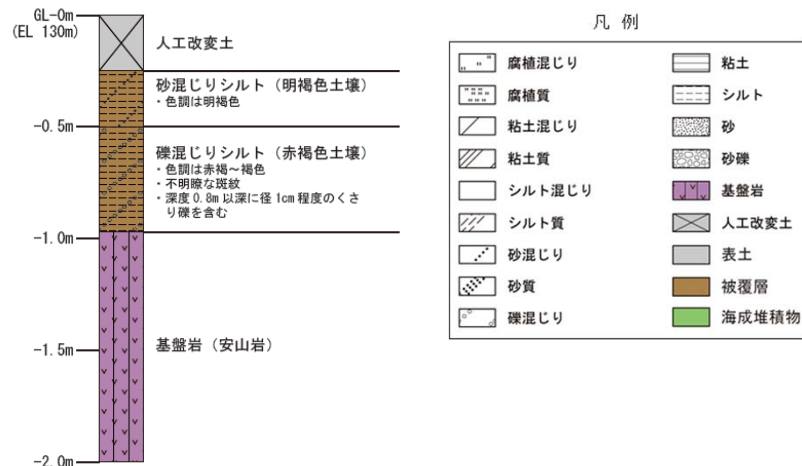
和光台南の断層 Loc.1 高位段丘V面 段丘面調査結果



和光台南の断層 Loc.2 高位段丘V面 段丘面調査結果



調査位置図

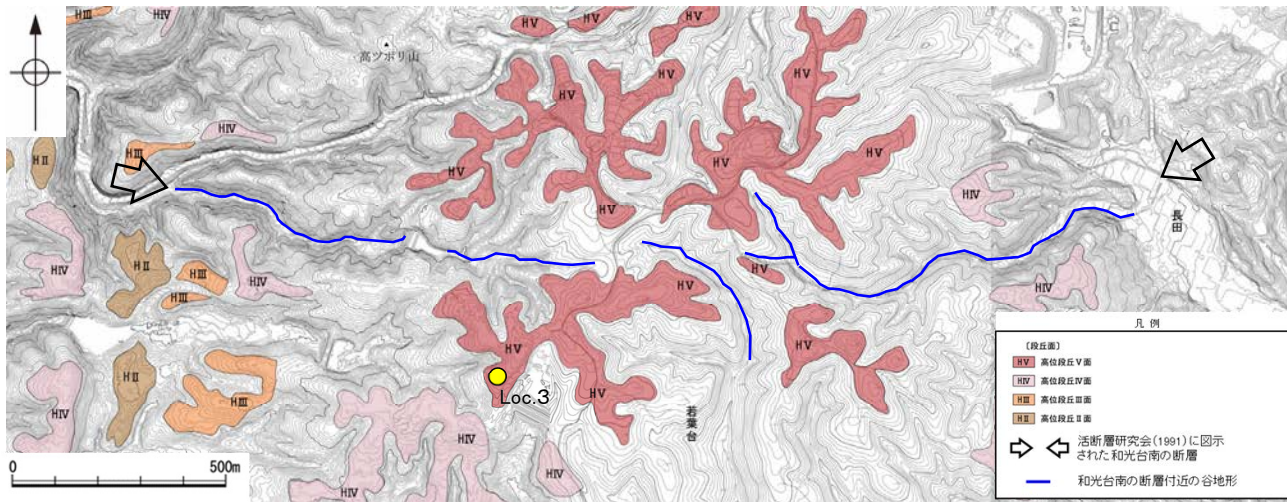


柱状図

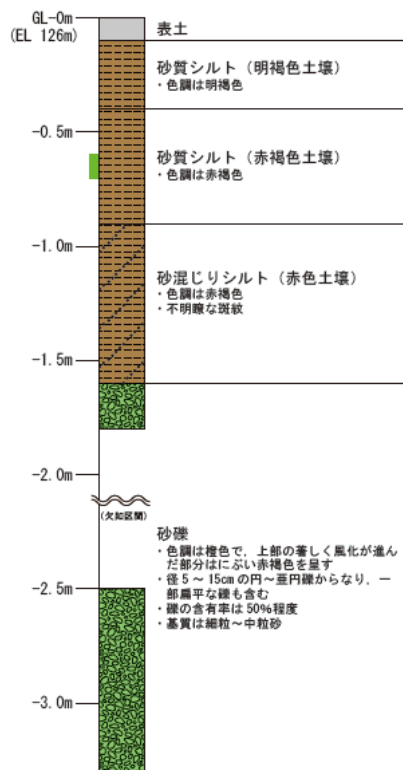


コア写真

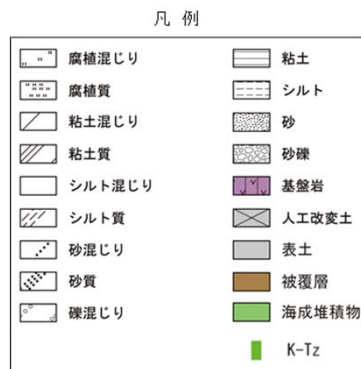
和光台南の断層 Loc.3 高位段丘V面 段丘面調査結果



調査位置図



柱状図



テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前

火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
	Bw	Pm	O	Opx	GHo	Cum				
0.0-0.1	357	0	8	13	49	0.1	9		1.497-1.500	AT+K-Tz混在
0.1-0.2	202	0	3	5	32	0	11		1.497-1.501	
0.2-0.3	115	0	2	1	15	0	19			
0.3-0.4	19	0	0	0.3	4	0	19			
0.4-0.5	9	0	0	0	2	0	19			
0.5-0.6	6	0	0.5	0.1	0.9	0	20			K-Tz
0.6-0.7	6	0	0	0	0.2	0	18			
0.7-0.8	4	0	0	0.1	0.4	0	8			
0.8-0.9	1.2	0	0	0.1	0.5	0	4			
0.9-1.0	0.6	0	0	0	0.1	0.1	4			
1.0-1.1	0.3	0	0	0	0	0	5			
1.1-1.2	0	0	0	0	0	0	11			
1.2-1.3	0	0	0	0	0.2	0	3			
1.3-1.4	0.2	0	0	0	0	0	6			
1.4-1.5	7	0	0	0	0.9	0.1	7			
1.5-1.6	0.1	0	0	0	0	0	16			

Bw: パブルウォールタイプ
Pm: ハミスタイプ
O: 低発泡タイプ
Opx: 斜方輝石 GHo: 緑色普通角閃石 Cum: カミングトン閃石

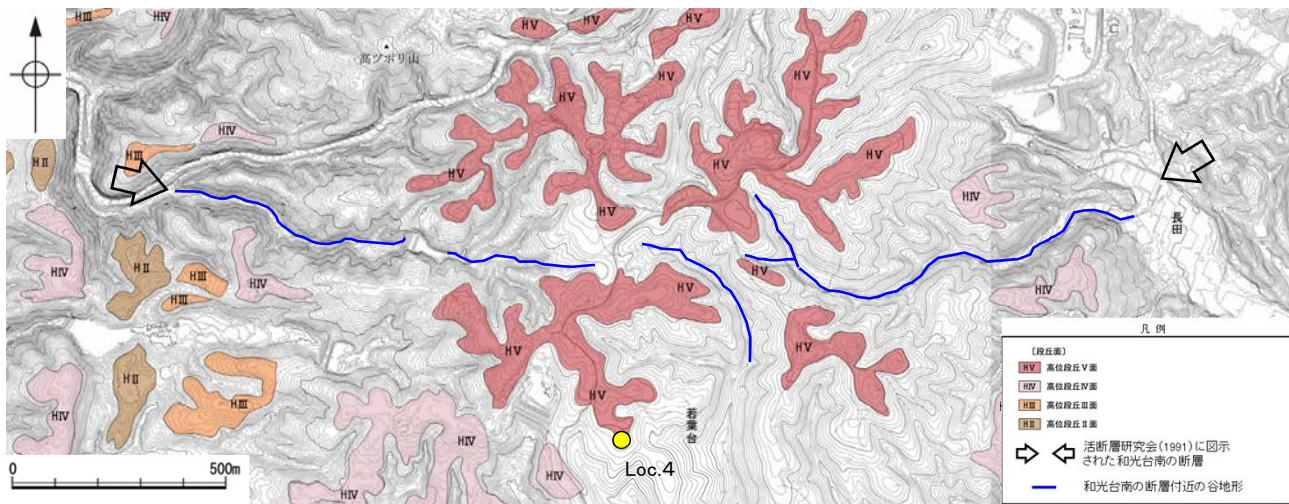


露頭写真(上部)



露頭写真(下部)

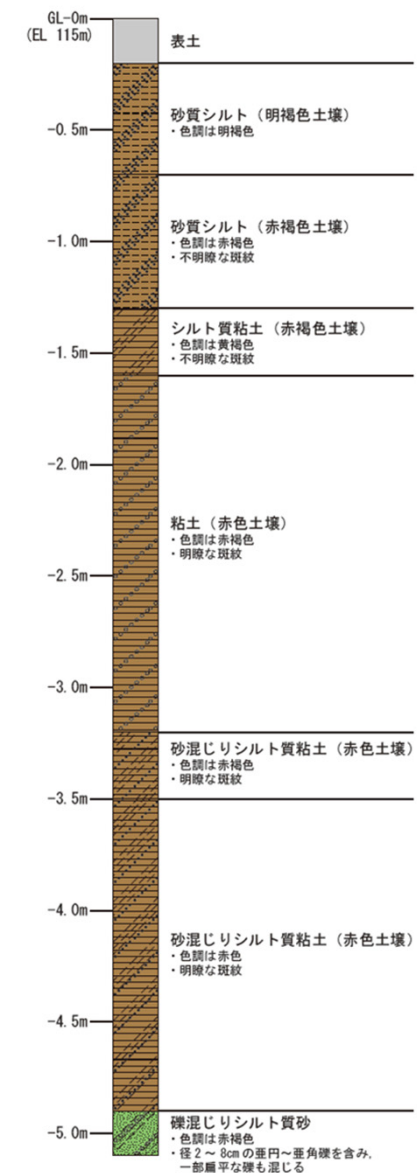
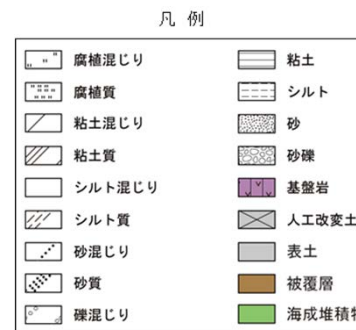
和光台南の断層 Loc.4 高位段丘V面 段丘面調査結果



調査位置図

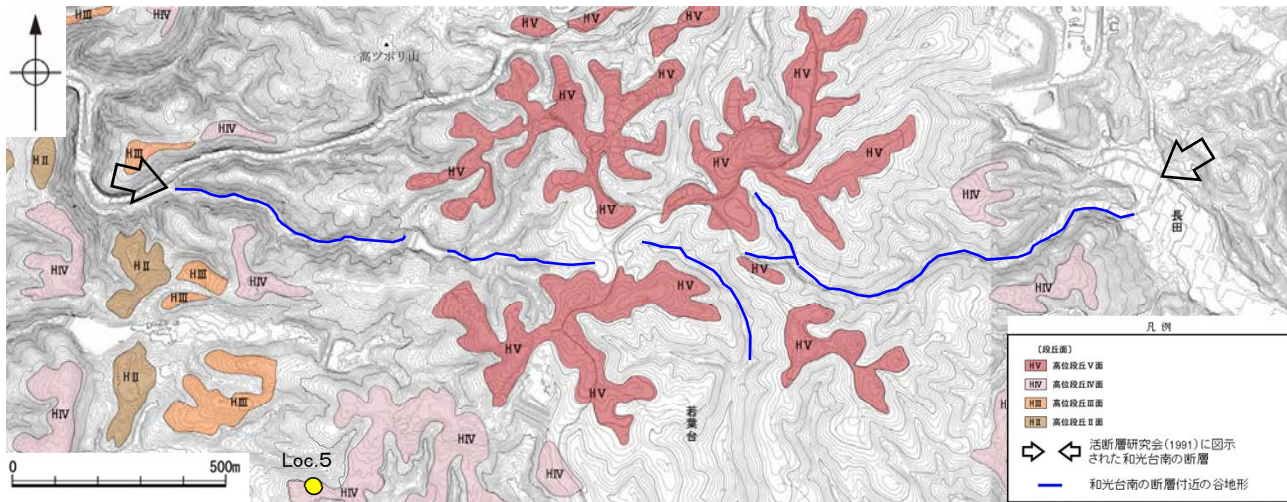


露頭写真

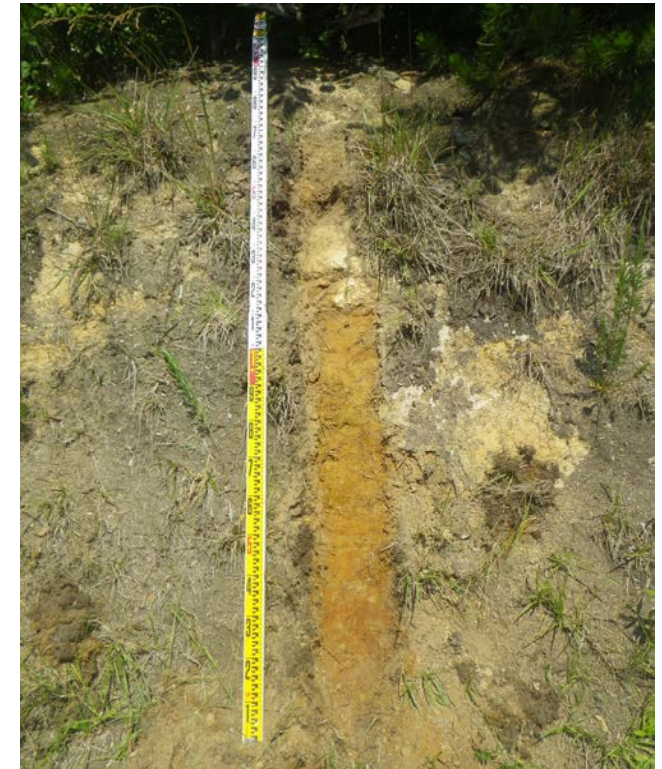


柱状図

和光台南の断層 Loc.5 高位段丘IV面 段丘面調査結果



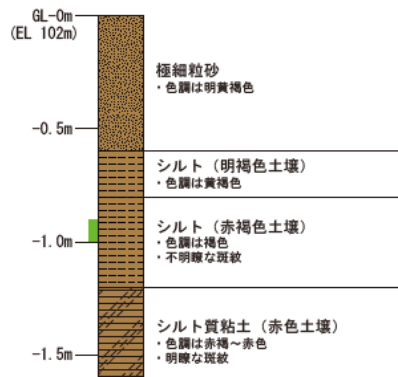
調査位置図



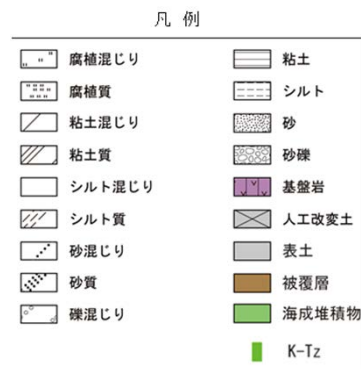
露頭写真

テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前



柱状図



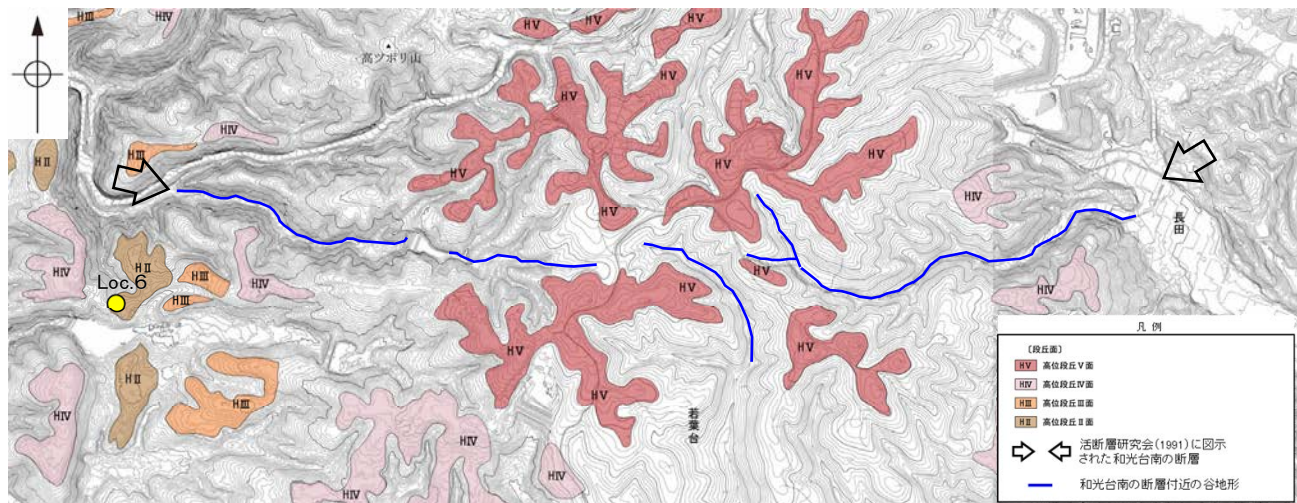
火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
	Bw	Pm	O	Opx	GHo	Cum				
0.0-0.1	240	0	16	13	66	0	3			AT+K-Tz混在
0.1-0.2	362	0	6	15	73	2	5		1.496-1.500	
0.2-0.3	292	0	7	20	47	1	5			
0.3-0.4	269	0	8	4	39	1	4			
0.4-0.5	271	0	4	16	76	3	5			
0.5-0.6	243	0	7	16	90	1	8			
0.6-0.7	60	0	2	10	44	0	7		1.496-1.501	
0.7-0.8	9	0	0	1	28	1	10			
0.8-0.9	5	1	0	0.6	13	0	9			
0.9-1.0	0	0	0	0	0.6	0	13			K-Tz
1.0-1.1	0.4	0	0	0	0.8	0	9			
1.1-1.2	0	0	0	0	1	0	4			
1.2-1.3	0	0	0	0	0.6	0	6			
1.3-1.4	2	0	0	0	0	0	4			
1.4-1.5	0	0	0	0	0.7	0.3	5			
1.5-1.6	1	0	0	0	0.4	0.4	4			

Bw: バブルウォールタイプ
Pm: バミスタタイプ
O: 低発泡タイプ

Opx: 斜方輝石 GHo: 緑色普通角閃石 Cum: カンクン閃石

和光台南の断層 Loc.6 高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



調査位置図



コア写真

*深度0.0~0.27mは、コアサンブラーの打撃により圧縮されているため、見掛け上コアが欠如している。

火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)		β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
	Sw	Pm	O	Opx	GHo				
A00	25	0	0	2	2	0.7			
A01	9	0	0	1	2	0.3			
A02	18	0	0	3	6	0.8			
A03	42	0	0	4	11	0.7	1.4968-1.4999		AT混在
A04	26	0	0	2	8	1			
A05	18	0	0	2	4	2			
A06	0	0	0	0	0	2.5			
A07	0	0	0	0	0	1.4			K-Tz
A08	0	0	0	0	0	0.9			
A10	0	0	0	0	0	1.6			
A11	0	0	0	0	0	0.6			
A12	0	0	0	0	0	0.1			
A13	0	0	0	0	0	0.1			
A14	0	0	0	0	0	0			
A15	0	0	0	0	0	0			
A16	0	0	0	0	0	0			

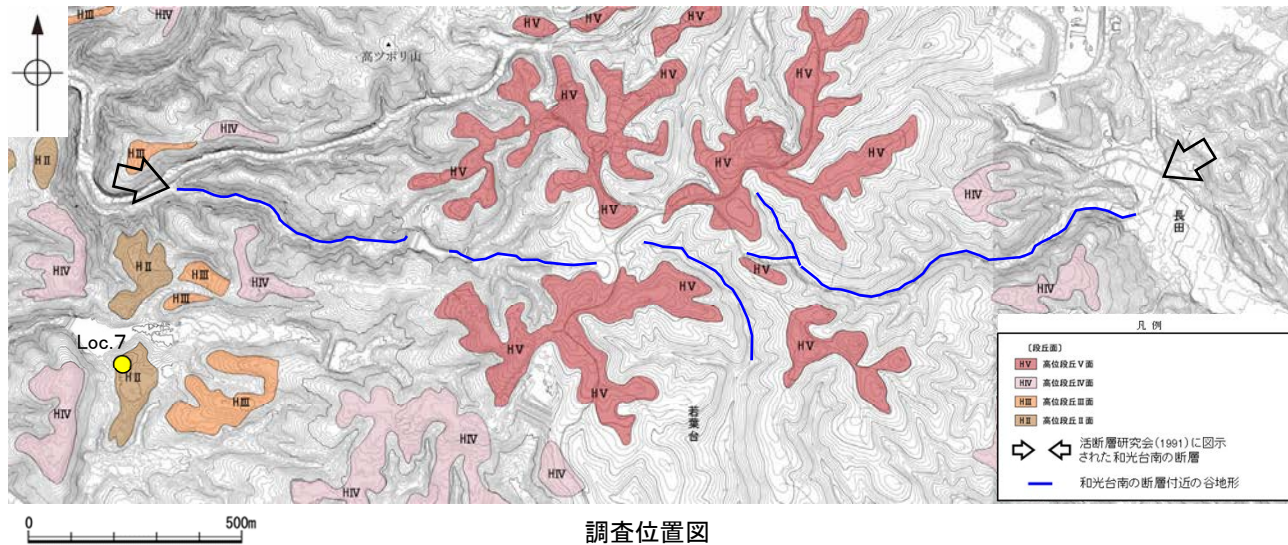
テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT:2.8万~3万年前
K-Tz:9.5万年前

深度 (m)	柱状図 (名称)	土性あるいは 地質名	色 調	土壌構造	腐植 含量	硬 密度	乾 湿	層界の 性状	斑 紋	観 察 記 事	分 析 項 目
											火山灰分析結果
0.0	崖 堆積物	砂質シルト	暗赤褐 (5YR 3/3)	なし	含	疎	半 湿	不 明	なし	指圧で跡が残る程度に締まりの程度は悪い。	A00 A01 A02 A03: AT混在 A04
0.5	I B2	シルト質粘土	赤褐 (5YR 4/8) 明褐 (7.5YR 5/8) 灰白 (10YR 7/1)	不明	なし	密	半 湿	不 明	やや鮮明 ・まだら	指圧で跡が残らない程、良く締まっている。	A05 A06: K-Tz A07: K-Tz A08
1.0	II-III B2	シルト質粘土	赤褐 (2.5YR 4/8) にぶい黄褐 (10YR 5/4) 灰白 (10YR 7/1)	不明	なし	密	半 湿	不 明	やや鮮明 ・まだら	指圧で跡が残らない程、良く締まっている。	A10 A11 A12 A13
1.5	段 丘堆積物	砂礫	にぶい赤褐 ~にぶい黄褐 (5YR 4/4 ~10YR 5/4)							礫は安山岩のくさり礫(径1~3cm)からなり、基質は砂質シルトである。指圧で跡が残らない程、良く締まっている。	A14 A15 A16
2.0	穴 水層	凝灰角礫岩	灰黄褐 (10YR 4/2)							全体的に強風化している。深度1.75~2.25mは、水分を多く含み、非常にゆるくなっている。	
2.5			にぶい黄褐 (10YR 4/3)								
3.0											

柱状図

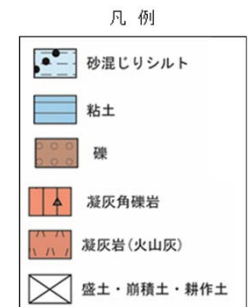
和光台南の断層 Loc.7 高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



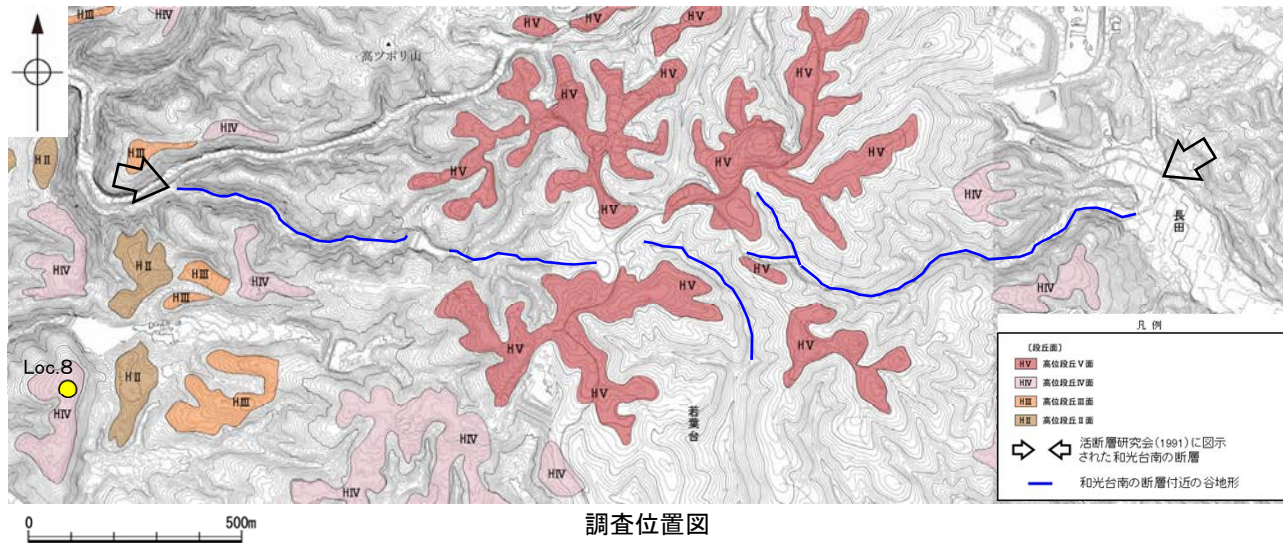
コア写真

深度 (m)	柱状図	土壌層位 (名称)	土性あるいは地質名	色 調	土壌構造	腐植含量	硬 度	乾 湿	層界の性状	斑 紋	観 察 記 事
0.0 - 0.1	表土	腐植質シルト	暗褐 (10YR 3/4)								
0.1 - 0.5	IR2	砂混じりシルト	褐 (7.5YR 4/4)	弱塊状	なし	密	半湿	不明	なし		指圧で跡が残らない程、良く締まっている。下位との境界は漸移的である。
0.5 - 1.0	II B2	シルト質粘土	赤褐 (5~2.5YR 4/8) にふい褐 (7.5YR 5/4)	中塊状	なし	密	半湿	不明	やや鮮明・まだら		指圧で跡が残らない程、良く締まっている。希に、安山岩の亜角礫 (径 0.5mm 程度) を含む。
1.0 - 1.5	段丘堆積物	砂礫	黄褐 (10YR 5/6)								礫は安山岩のくさり礫 (径 4cm 以上) からなり、基質は細粒~中粒砂である。
1.5 - 2.0	穴水泉層	凝灰角礫岩	黄褐~赤褐 (10YR 5/6 ~ 2.5YR 4/6)								全体的に強風化している。

柱状図



和光台南の断層 Loc.8 高位段丘IV面 段丘面調査結果

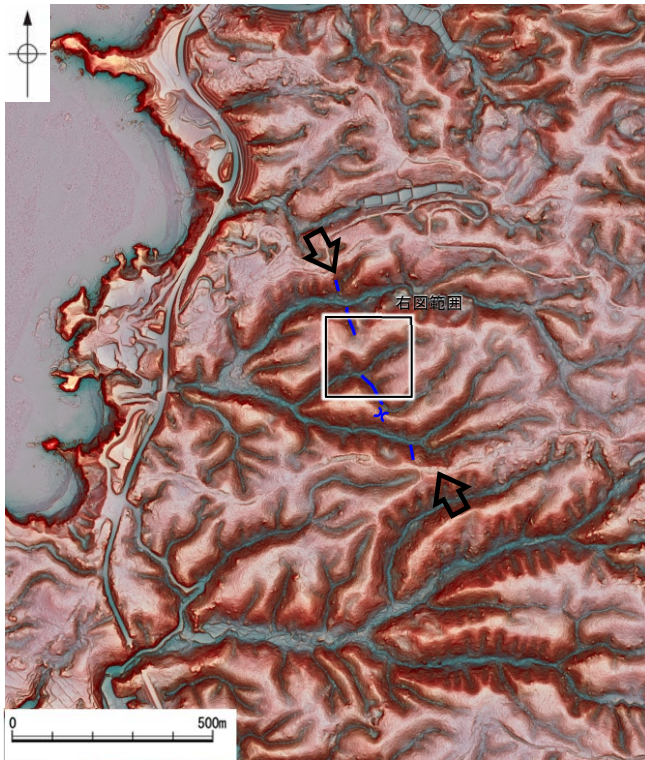


深度 (m)	土壌層位		土壌断面	土 色			トラ斑記載	
	名称	厚さ (cm)		赤色部		色 相	斑紋の配列 パターン	斑紋の コントラスト
				5 YR	2.5 YR			
0.5	I	45						
1.0	II	20						
1.0	III Bgu	50				赤:2.5YR~ 10R5/8 漸:7.5YR6/6		明瞭
1.5	III Bcl	30						
1.5	III BC	15						
2.0	IV B1g	35						
2.5	IV B2g	65				赤:10R5/8 淡:5YR6/4 (にぶい橙)		明瞭
3.0	45+		V V V V V					
3.5								

柱状図

(4) 高ツボリ山北西方 I リニアメント 表土はぎ調査

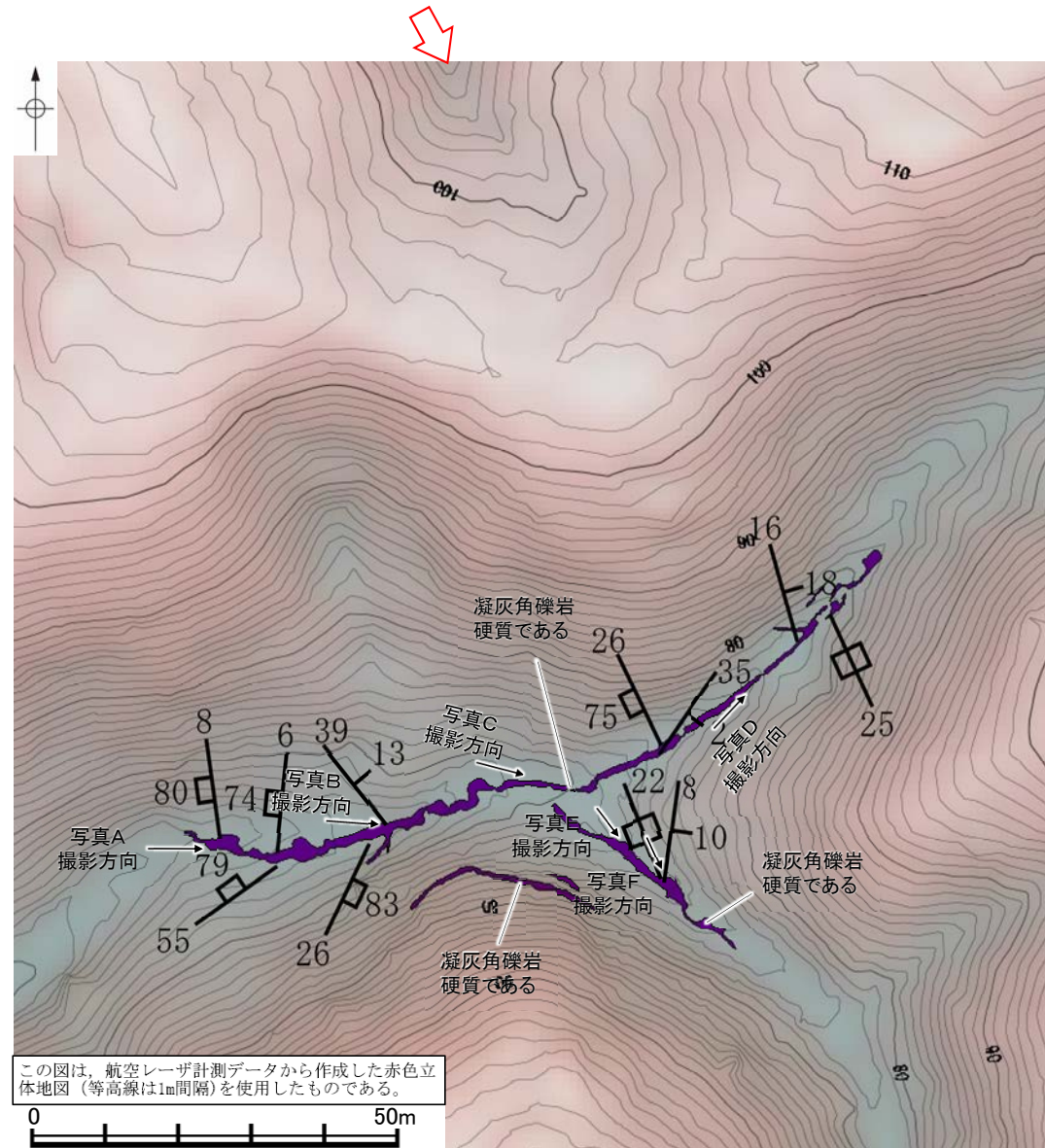
○高ツボリ山北西方 I リニアメントと推定される位置を横断する沢部で表土はぎ調査を実施した結果、穴水累層の安山岩質火砕岩(凝灰角礫岩)が広範囲に連続して分布し、それらは非破碎であり、断層は認められない。
○表土はぎ調査実施箇所の写真を次頁以降に示す。



位置図

- 凡例
- ⇨ ⇩ 活断層研究会(1991)に図示された確実度Ⅲのリニアメント
 - 高ツボリ山北西方 I リニアメント付近の谷地形
 - ⊗ 高ツボリ山北西方 I リニアメント付近の鞍部

- 凡例
- 【地質】
- 穴水累層 安山岩質火砕岩 (凝灰角礫岩)
 - 15° 30° 層理の走向・傾斜
 - 60° 30° 節理の走向・傾斜
- 【記号】
- ⇨ ⇩ 高ツボリ山北西方 I リニアメントと推定される地形



この図は、航空レーザ計測データから作成した赤色立体地図 (等高線は1m間隔) を使用したものである。

表土はぎ調査結果(ルートマップ)

←N

S→



写真A

←N

S→



写真B

←NE

SW→



写真C

←NW

SE→



写真D

←NE

SW→



写真E

←NE

SW→



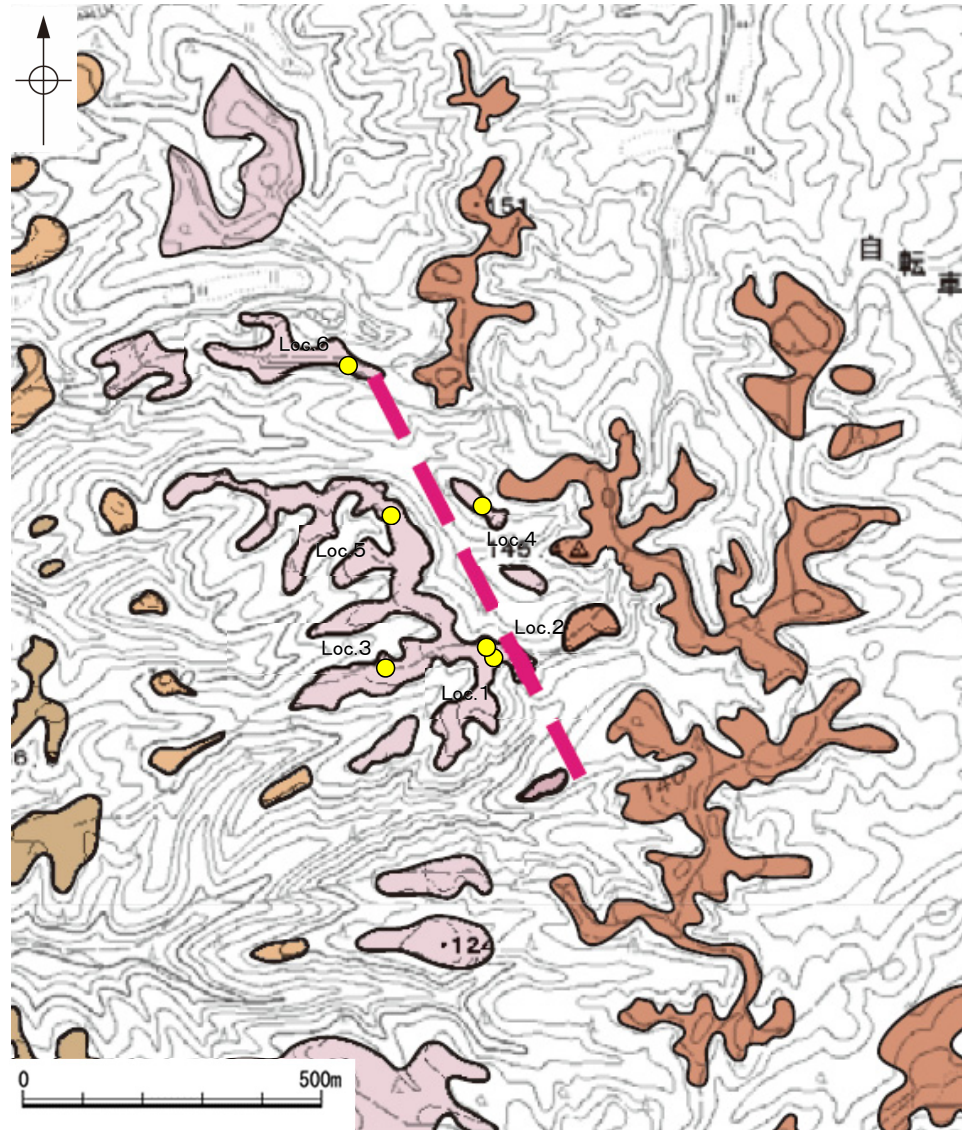
写真F

(5) 高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント周辺 段丘面調査

高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント 段丘面調査

○高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント周辺には、高位段丘面(Ⅱ面, Ⅲ面, Ⅳ面, Ⅴ面)が分布している。

○これらの高位段丘面上において、露頭調査, ピット調査を実施し、これらの地形面が十分に古いことを示す土壌(火山灰含む)の有無を確認した。



位置図

調査地点	段丘面区分	調査方法	土壌(火山灰)
Loc.1	高位段丘Ⅳ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.2	高位段丘Ⅳ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.3	高位段丘Ⅳ面	露頭調査	赤色土壌あり(-)
Loc.4	高位段丘Ⅳ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.5	高位段丘Ⅳ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.6	高位段丘Ⅳ面	露頭調査	赤色土壌あり(K-Tz)

テフラの年代(町田・新井, 2011)

K-Tz: 9.5万年前

-: 分析未実施

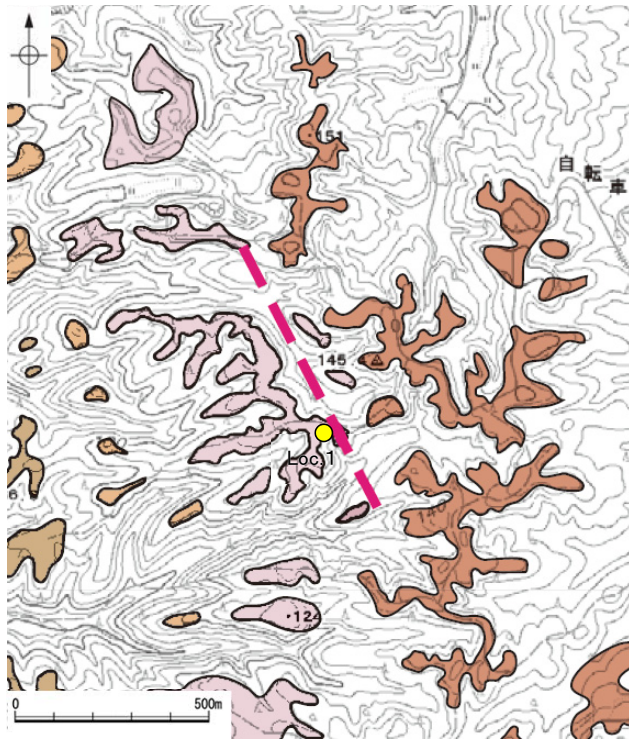
凡例

HV	高位段丘Ⅴ面
HIV	高位段丘Ⅳ面
HIII	高位段丘Ⅲ面
HII	高位段丘Ⅱ面

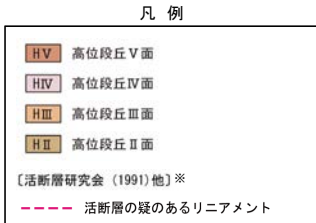
〔活断層研究会(1991)他〕※
 --- 活断層の疑のあるリニアメント

※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。

高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント Loc.1 高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



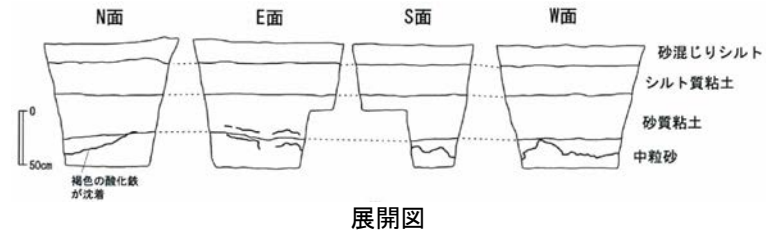
調査位置図



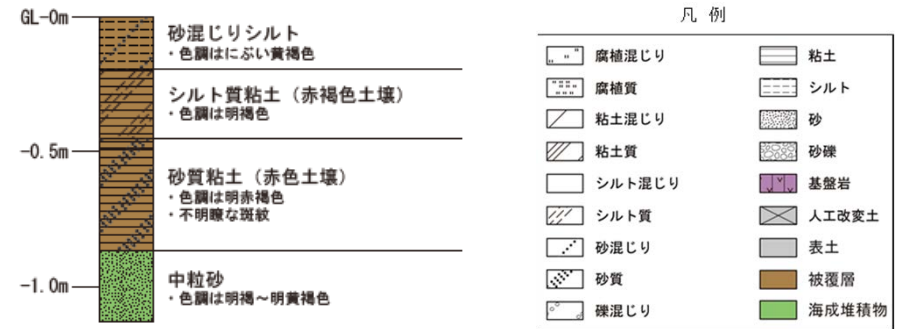
※:活断層研究会(1991)(基図:1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図:1/50,000地形図)の断層トレース。



ピット写真(W面)

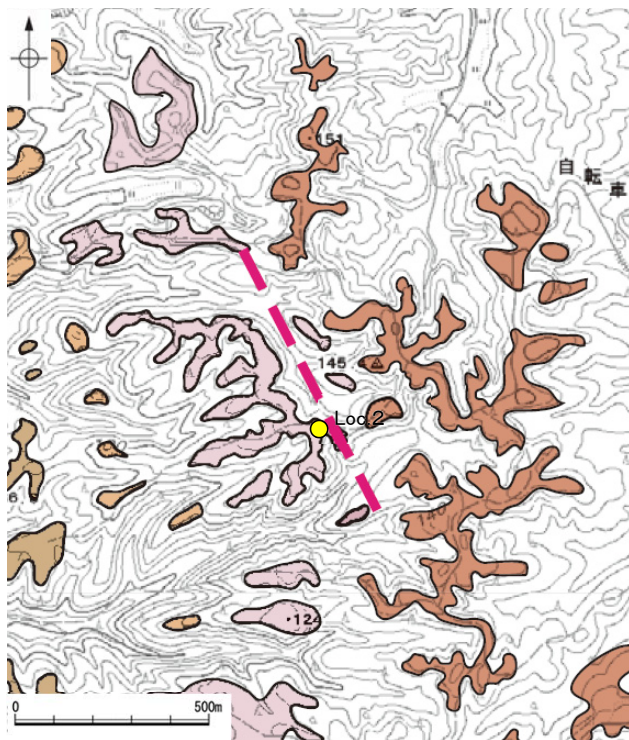


展開図



柱状図

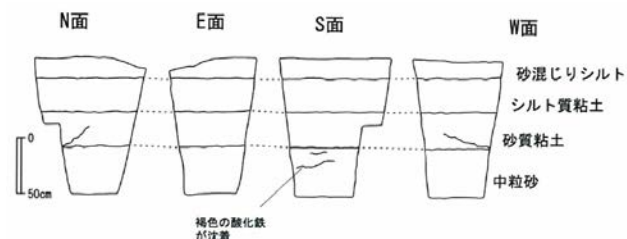
高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント Loc.2 高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



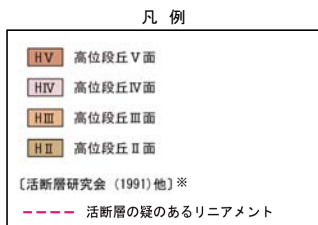
位置図



ピット写真(S面)

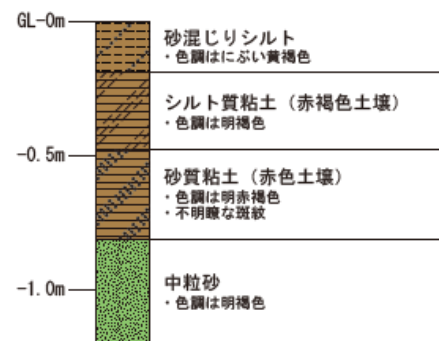


展開図

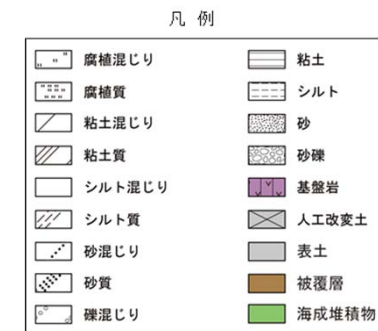


テフラの年代(町田・新井, 2011)
K-Tz: 9.5万年前

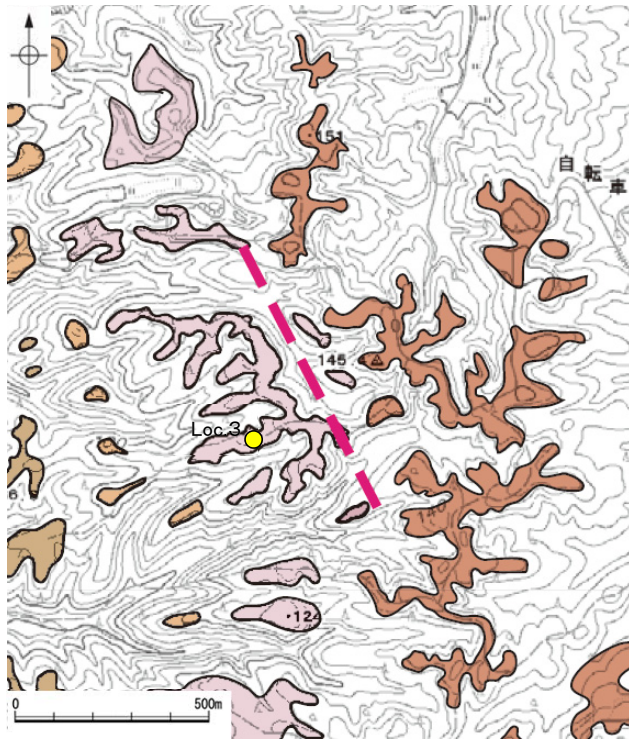
※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。



柱状図



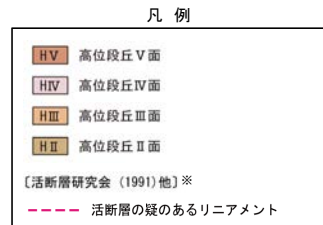
高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント Loc.3 高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



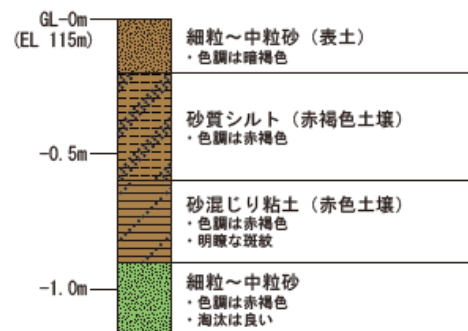
位置図



露頭写真

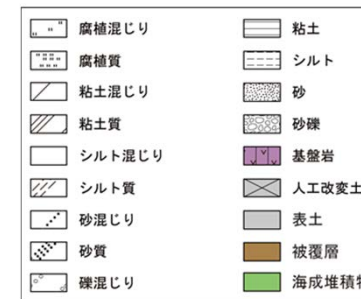


※:活断層研究会(1991)(基図:1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図:1/50,000地形図)の断層トレース。

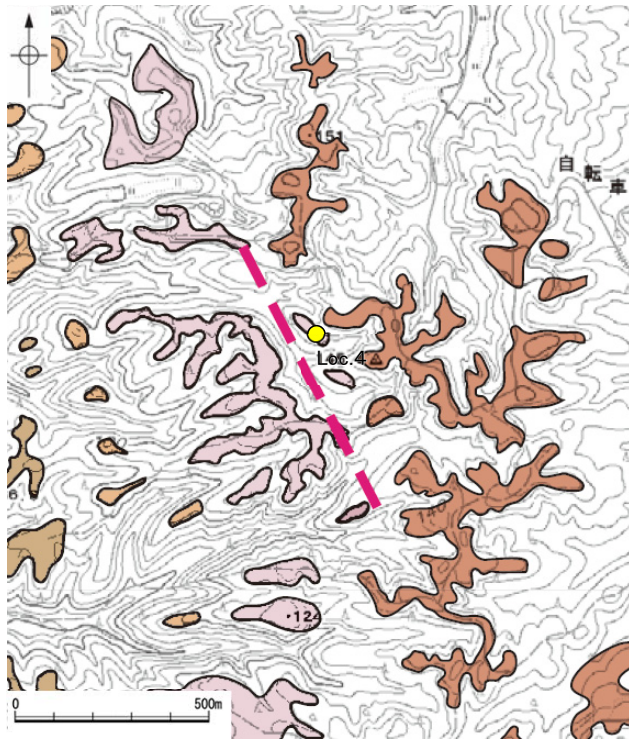


柱状図

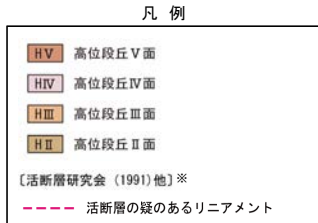
凡例



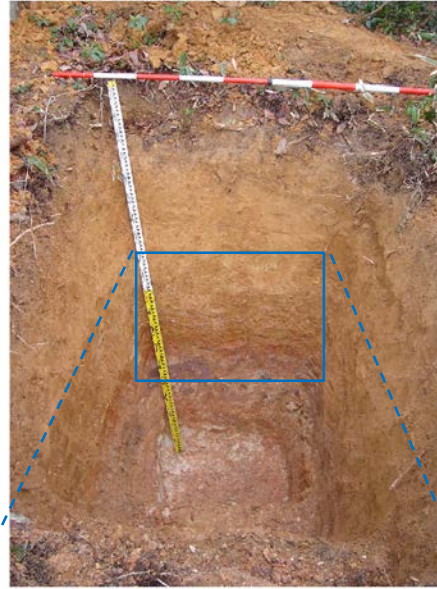
高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント Loc.4 高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



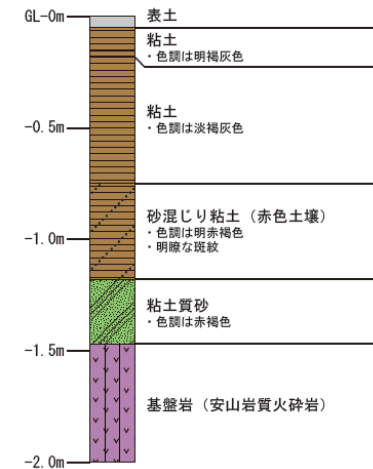
位置図



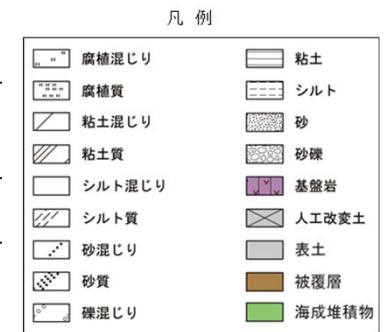
※: 活断層研究会 (1991) (基図: 1/200,000地形図) とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部 (1997) (基図: 1/50,000地形図) の断層トレース。



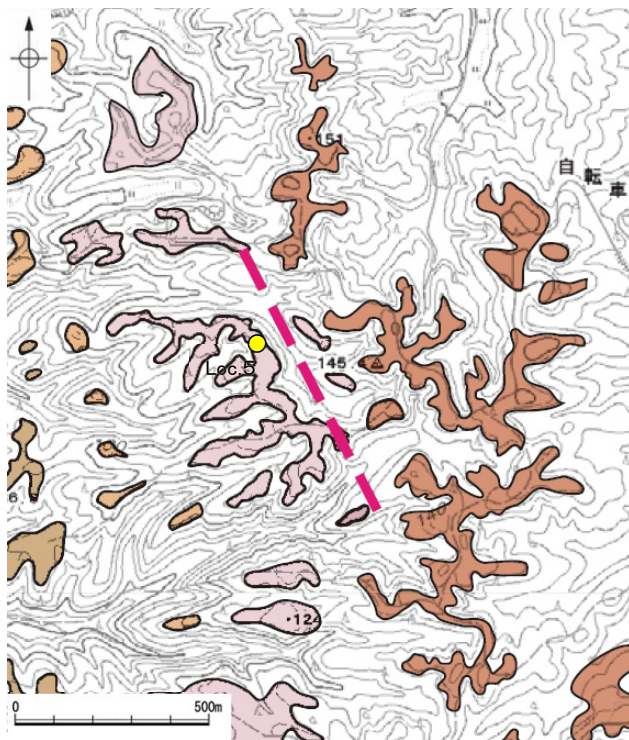
ピット写真



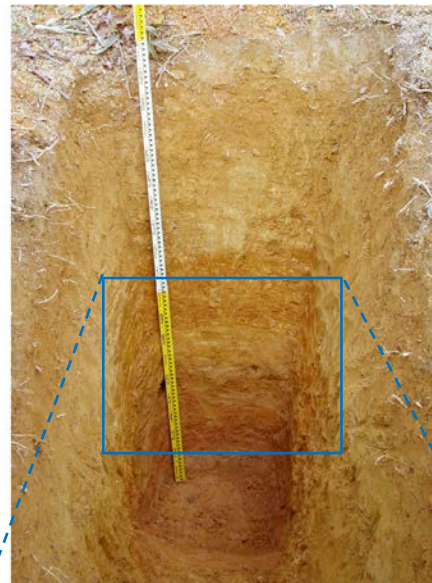
柱状図



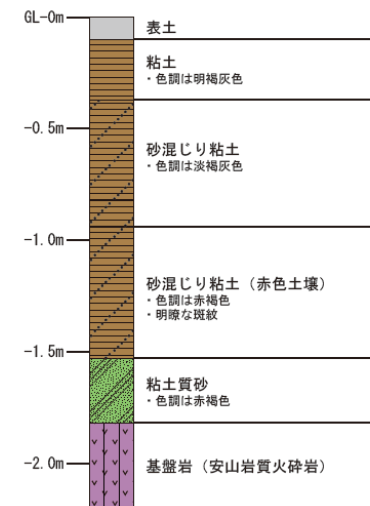
高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント Loc.5 高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



位置図



ピット写真



凡例

柱状図

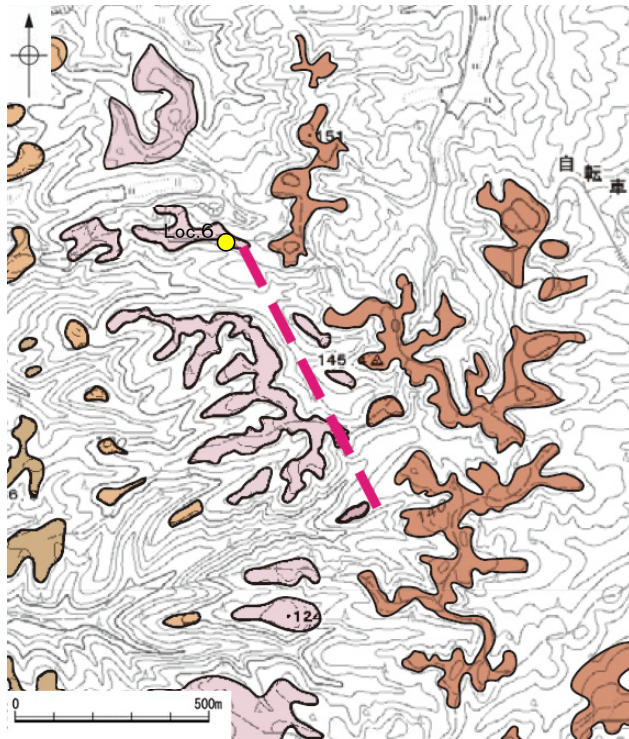
凡例

	高位段丘Ⅴ面
	高位段丘Ⅳ面
	高位段丘Ⅲ面
	高位段丘Ⅱ面

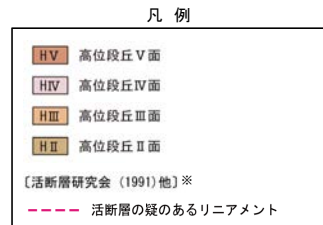
〔活断層研究会 (1991) 他〕※
 --- 活断層の疑のあるリニアメント

※: 活断層研究会 (1991) (基図: 1/200,000地形図) とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部 (1997) (基図: 1/50,000地形図) の断層トレース。

高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント Loc.6 高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



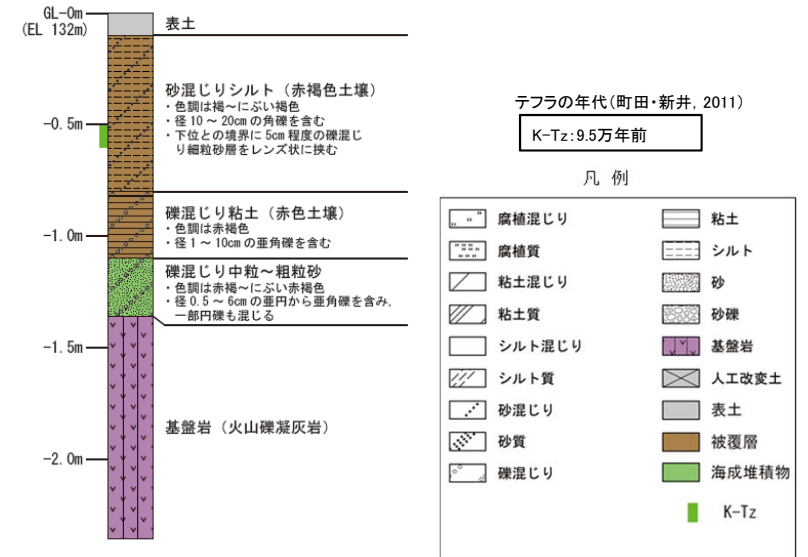
位置図



※:活断層研究会(1991)(基図:1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図:1/50,000地形図)の断層トレース。



露頭写真



柱状図

火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	テフラ名
	Bw	Pm	O	Opx	GHo	Cum			
0.0-0.1	8	0	0	5	2	0	0.7		
0.1-0.2	15	0	0	16	7	0	0.6		
0.2-0.3	5	0	0	2	0.5	0.1	0.1		
0.3-0.4	10	0	0	2	1	0	0.4		
0.4-0.5	8	0	0.5	3	3	0	0.5		
0.5-0.6	7	0	0	5	7	0	2		K-Tz
0.6-0.7	12	0	1	3	6	0	1		
0.7-0.8	5	0	0	9	5	0	0.5		
0.8-0.9	1	0	0	4	1	0	0.5		
0.9-1.0	1	0	0.1	5	2	0	0.4		
1.0-1.1	1	0	0	4	1	0	0		
1.1-1.2	0.3	0	0	1	0.4	0.1	0.1		
1.2-1.3	0.3	0	0	0.5	0	0	0		
1.3-1.4	0.2	0	0	0.2	0	0	0		
1.4-1.5	0.4	0	0	0	0	0	0		
1.5-1.6	0.1	0	0	0.8	0.5	0	0.2		

Bw: パブルウォールタイプ
 Pm: ハミスタイプ
 O: 低発泡タイプ

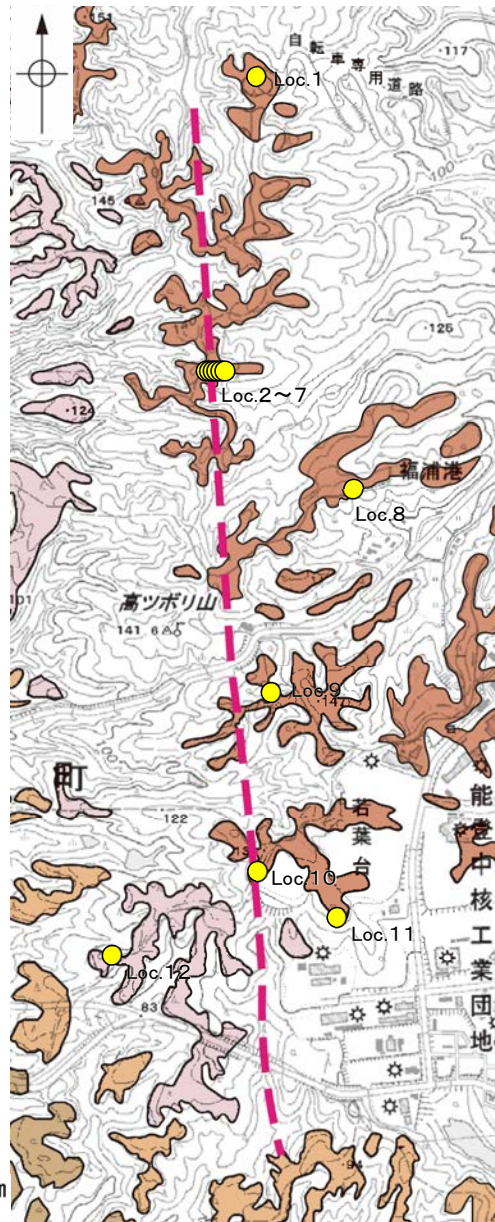
Opx: 斜方輝石 GHo: 緑色普通角閃石 Cum: カミングトン閃石

(6) 高ツボリ山東方リニアメント周辺 段丘面調査

高ツボリ山東方リニアメント 段丘面調査

○高ツボリ山東方リニアメント周辺には、高位段丘面(Ⅱ面, Ⅲ面, Ⅳ面, Ⅴ面)が分布している。

○これらの高位段丘面上において、露頭調査, ピット調査を実施し、これらの地形面が十分に古いことを示す土壌(火山灰含む)の有無を確認した。



位置図

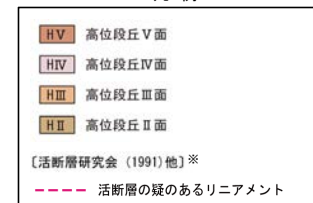
調査地点	段丘面区分	調査方法	土壌(火山灰)
Loc.1	高位段丘Ⅴ面	露頭調査	赤色土壌あり(-)
Loc.2	高位段丘Ⅴ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.3	高位段丘Ⅴ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.4	高位段丘Ⅴ面 </td <td>ピット調査</td> <td>赤色土壌あり(-)</td>	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.5	高位段丘Ⅴ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.6	高位段丘Ⅴ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.7	高位段丘Ⅴ面	ピット調査	赤色土壌あり(-)
Loc.8	高位段丘Ⅴ面	露頭調査	赤色土壌あり(-)
Loc.9	高位段丘Ⅴ面	露頭調査	赤色土壌あり(-)
Loc.10	高位段丘Ⅴ面	露頭調査	赤色土壌あり(K-Tz)
Loc.11	高位段丘Ⅴ面	露頭調査	赤色土壌あり(-)
Loc.12	高位段丘Ⅳ面	露頭調査	赤色土壌あり(K-Tz)

テフラの年代(町田・新井, 2011)

K-Tz: 9.5万年前

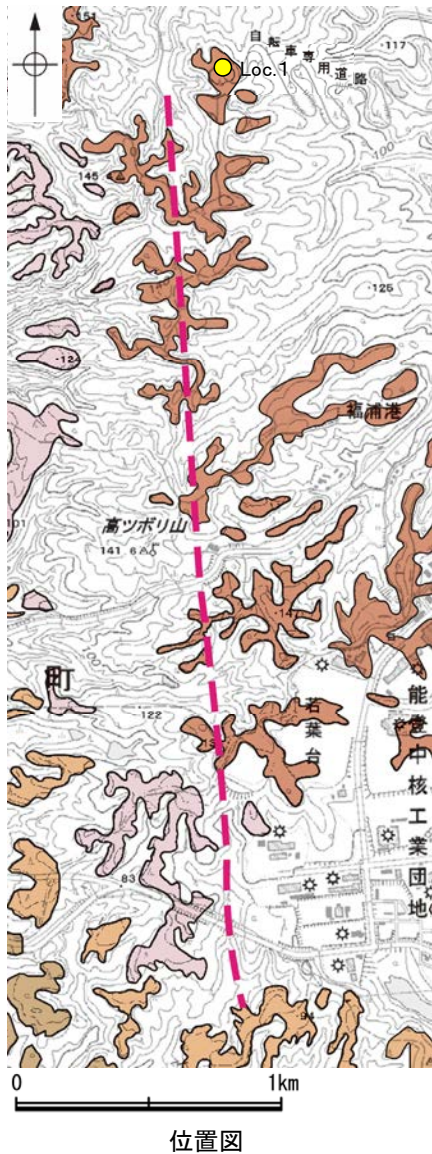
-: 分析未実施

凡例

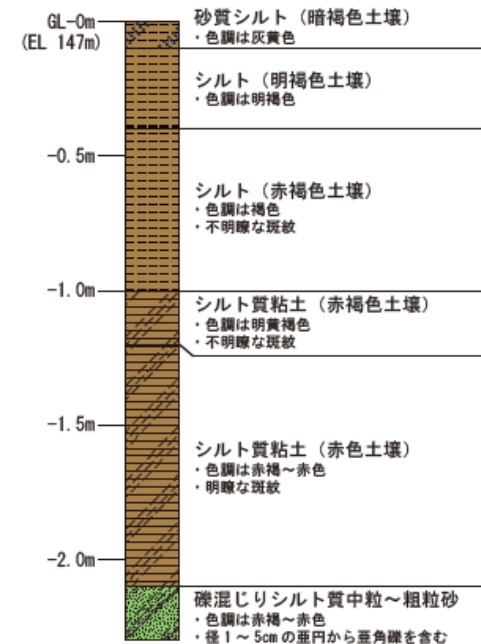


※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。

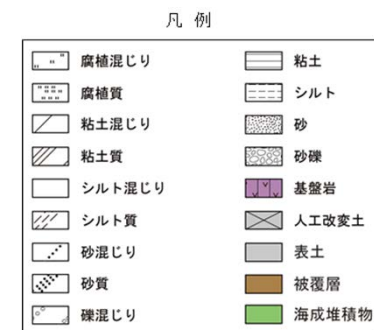
高ツボリ山東方リニアメント Loc.1 高位段丘V面 段丘面調査結果



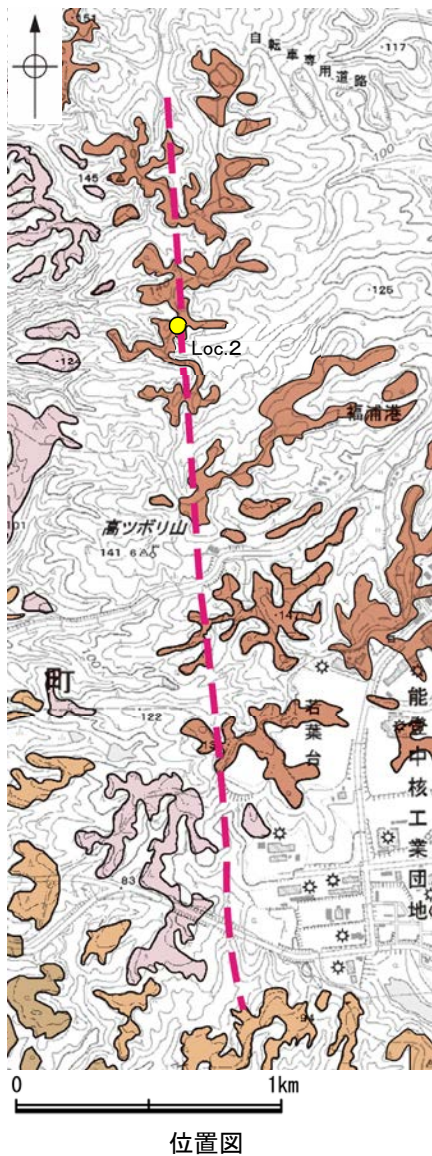
露頭写真



柱状図

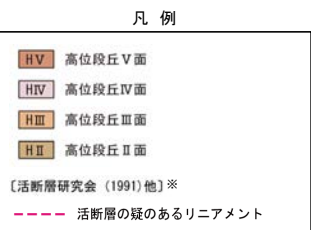


高ツボリ山東方リニアメント Loc.2 高位段丘V面 段丘面調査結果



テフラの年代(町田・新井, 2011)

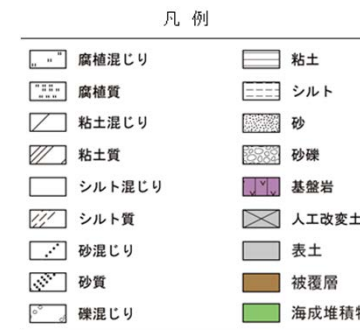
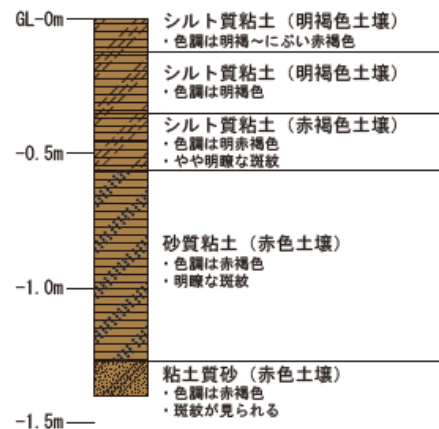
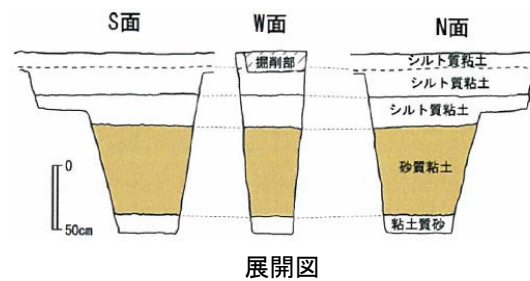
K-Tz: 9.5万年前



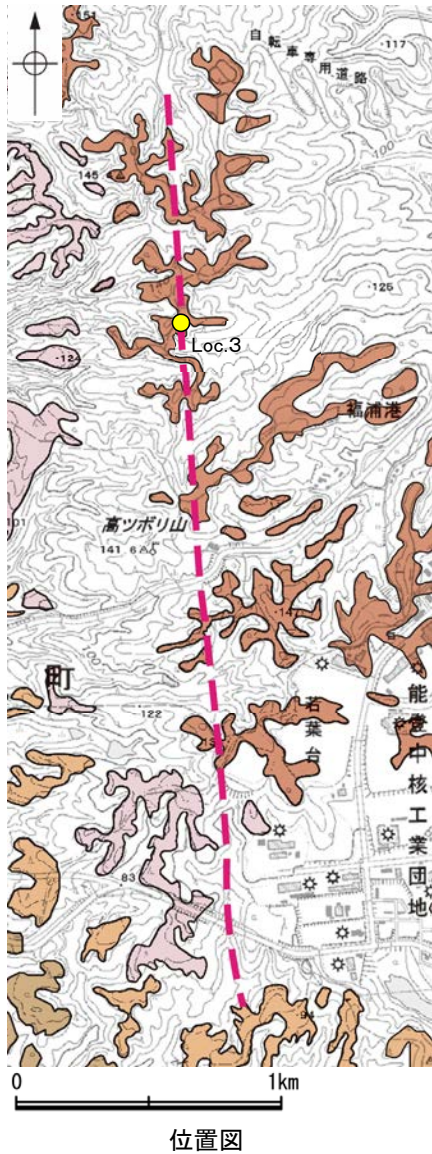
※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。



ピット写真(S面)

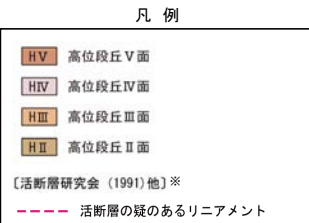


高ツボリ山東方リニアメント Loc.3 高位段丘V面 段丘面調査結果



テフラの年代(町田・新井, 2011)

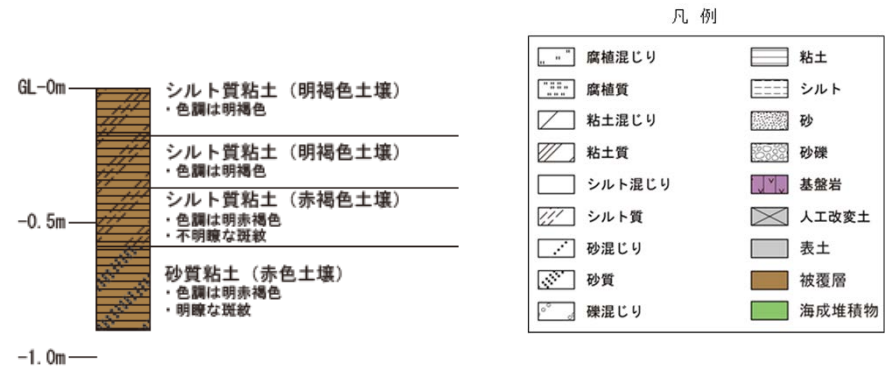
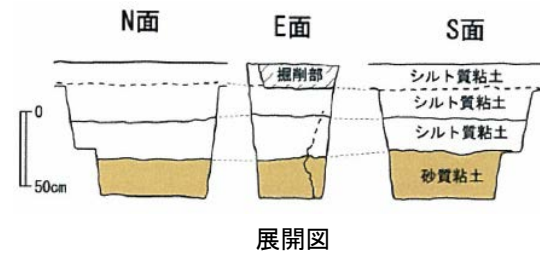
K-Tz: 9.5万年前



※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。

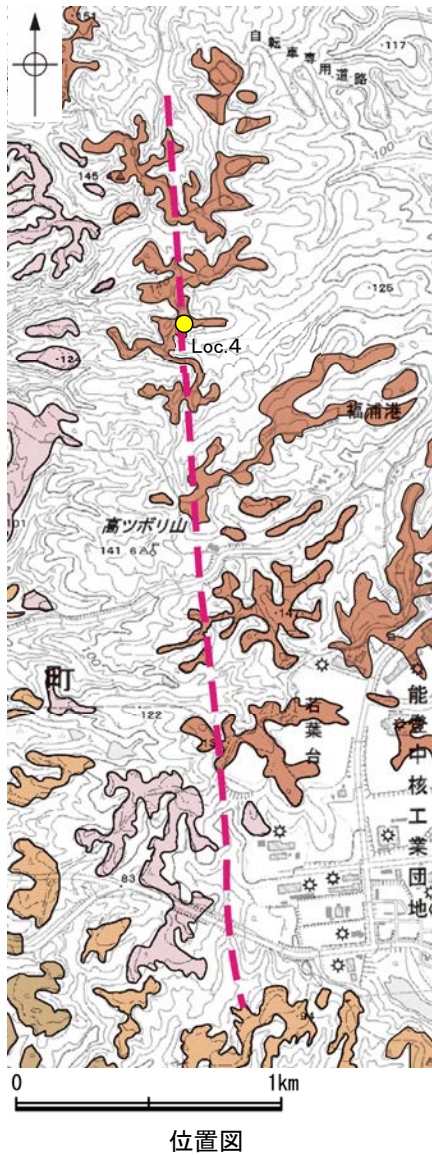


ピット写真(S面)



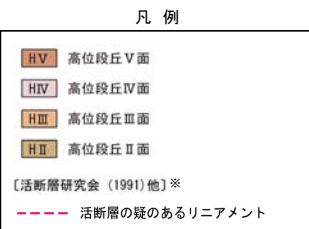
柱状図

高ツボリ山東方リニアメント Loc.4 高位段丘V面 段丘面調査結果



テフラの年代(町田・新井, 2011)

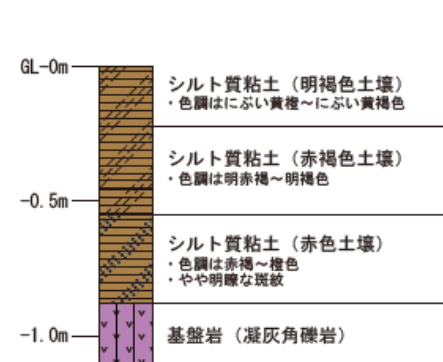
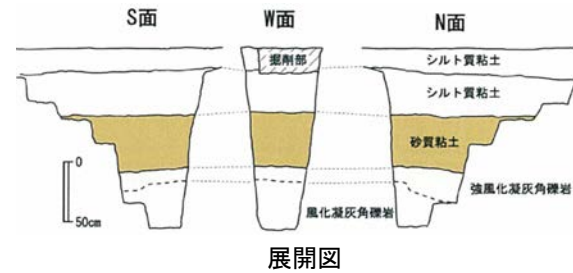
K-Tz: 9.5万年前



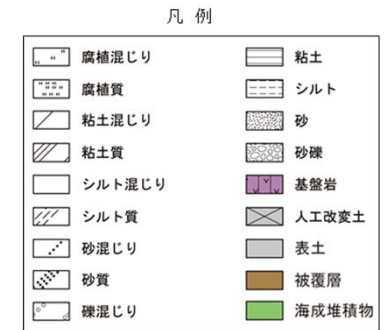
※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。



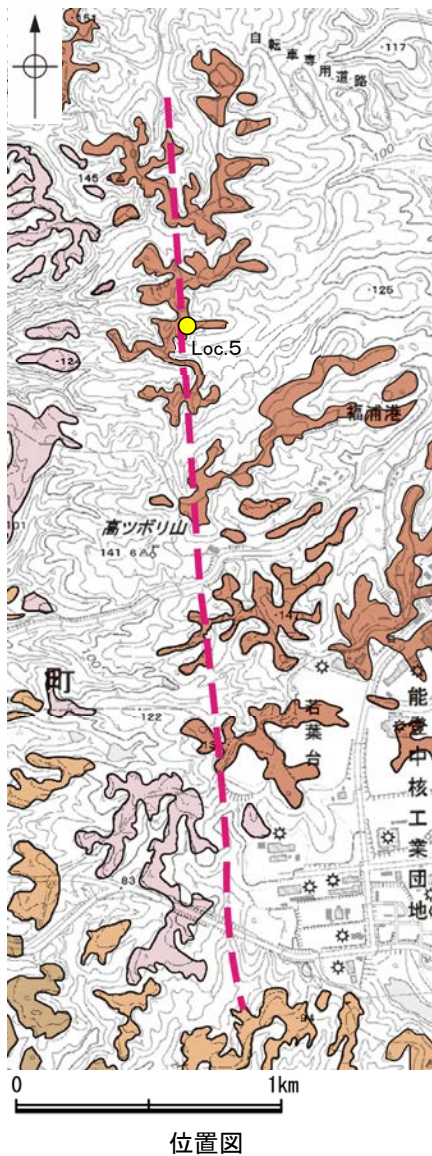
ピット写真(N面)



柱状図



高ツボリ山東方リニアメント Loc.5 高位段丘V面 段丘面調査結果



テフラの年代(町田・新井, 2011)

K-Tz: 9.5万年前

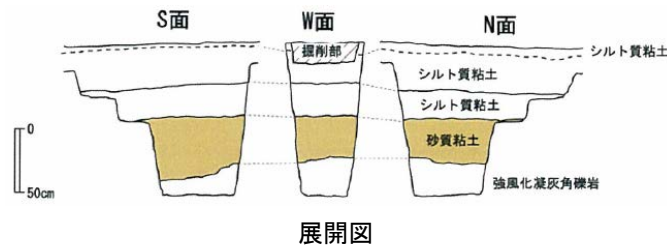
凡例



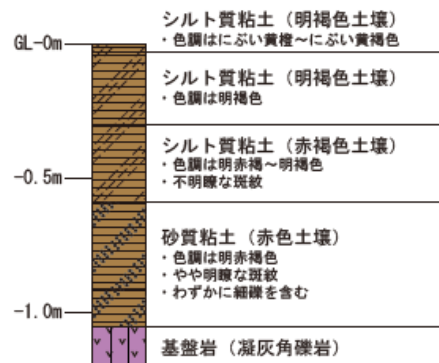
※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。



ピット写真(S面)

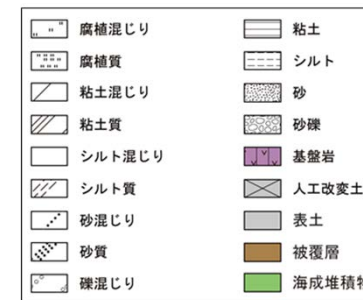


展開図

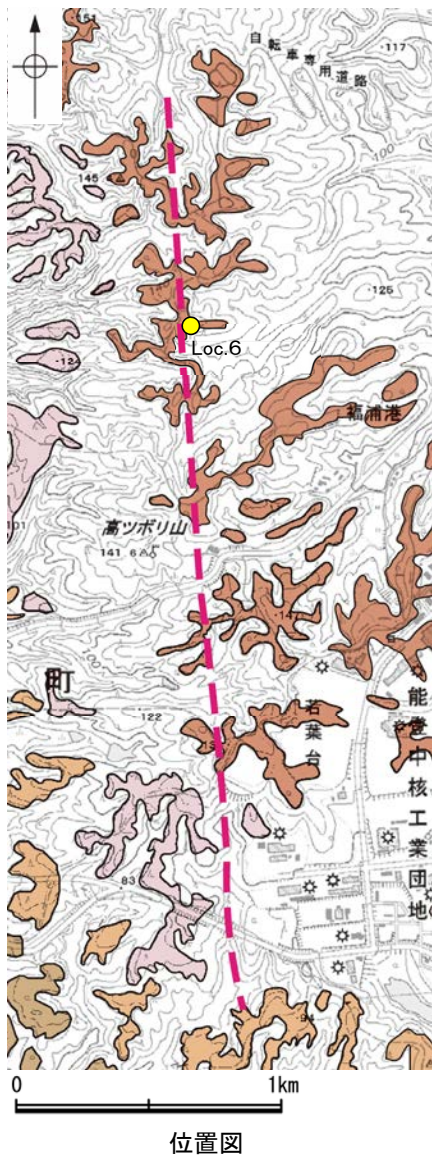


柱状図

凡例

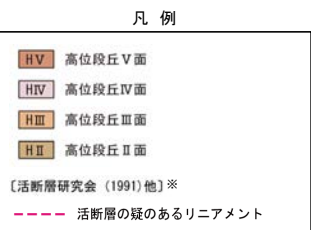


高ツボリ山東方リニアメント Loc.6 高位段丘V面 段丘面調査結果



テフラの年代(町田・新井, 2011)

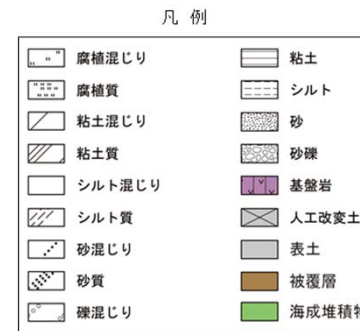
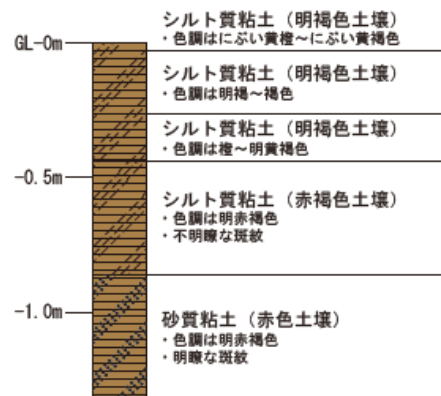
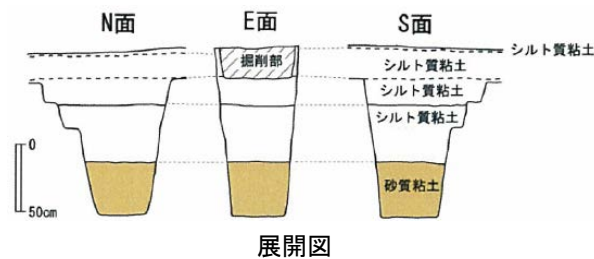
K-Tz: 9.5万年前



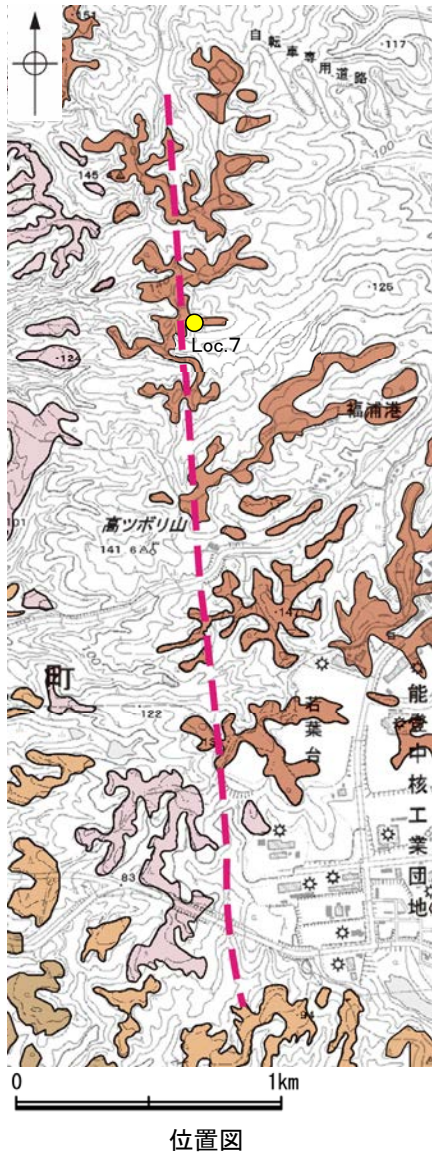
※:活断層研究会(1991)(基図:1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図:1/50,000地形図)の断層トレース。



ピット写真(N面)

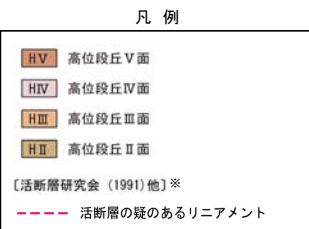


高ツボリ山東方リニアメント Loc.7 高位段丘V面 段丘面調査結果



テフラの年代(町田・新井, 2011)

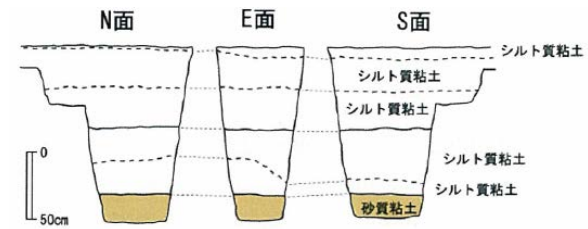
K-Tz: 9.5万年前



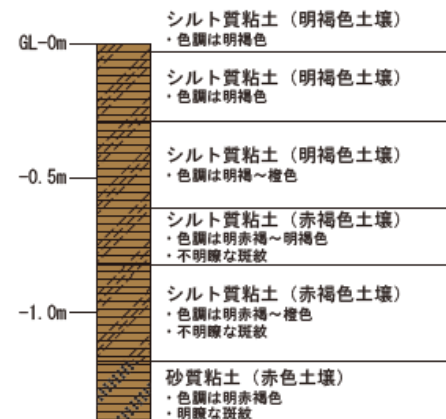
※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。



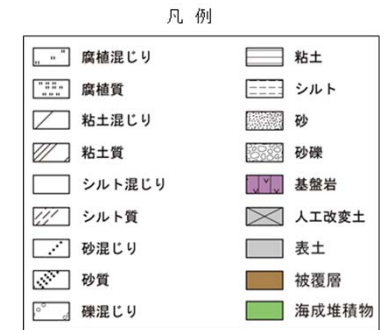
ピット写真(N面)



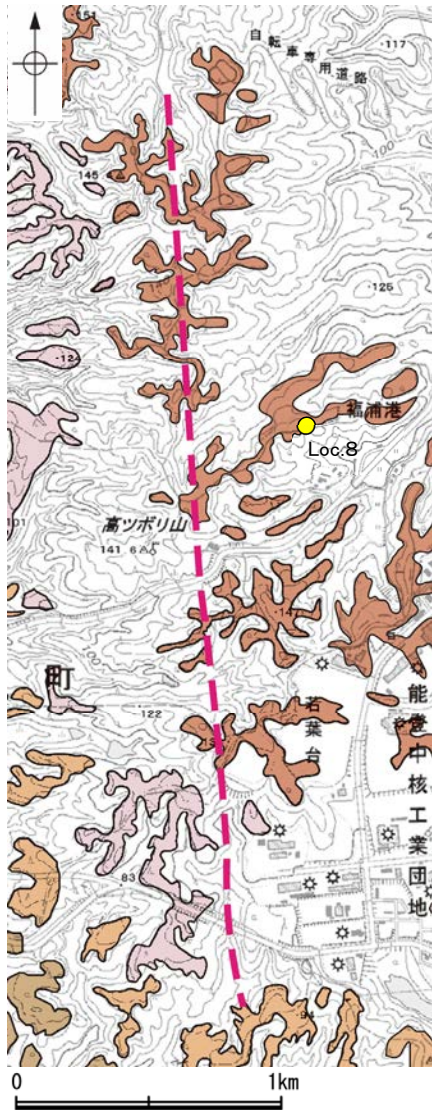
展開図



柱状図



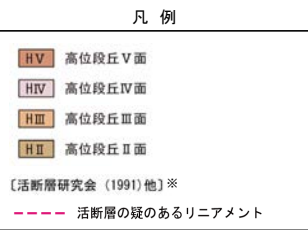
高ツボリ山東方リニアメント Loc.8 高位段丘V面 段丘面調査結果



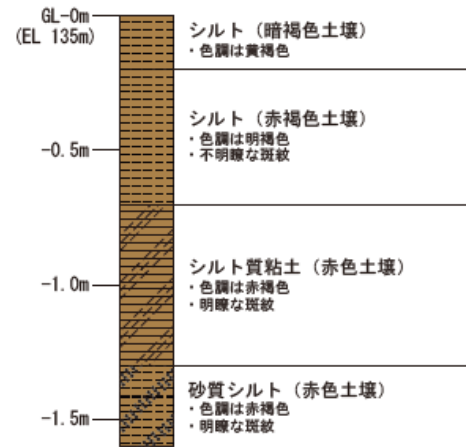
位置図

テフラの年代(町田・新井, 2011)

K-Tz: 9.5万年前

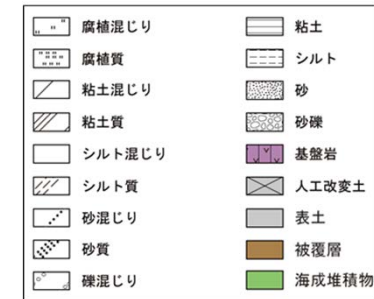


※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。

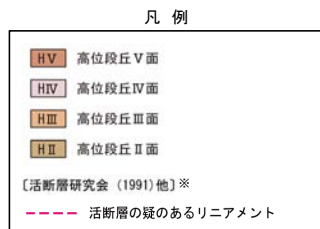
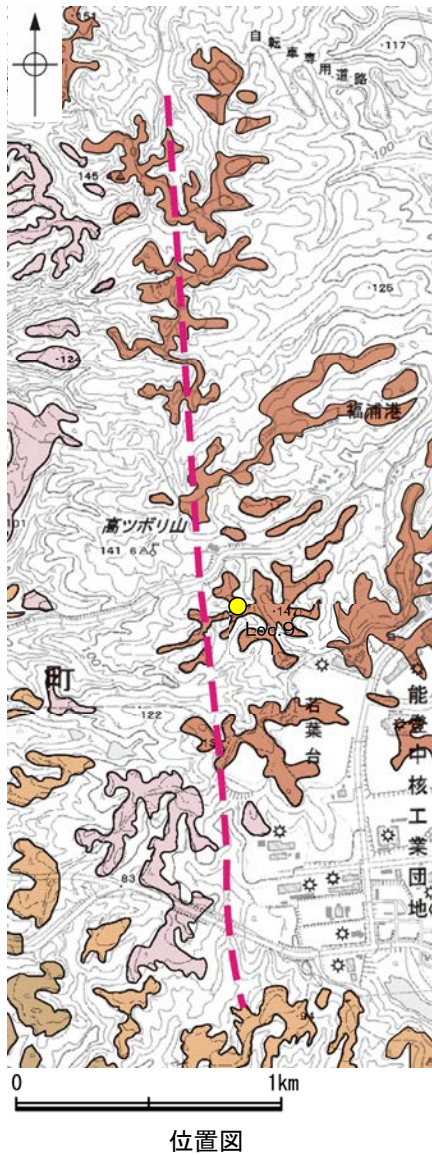


柱状図

凡例



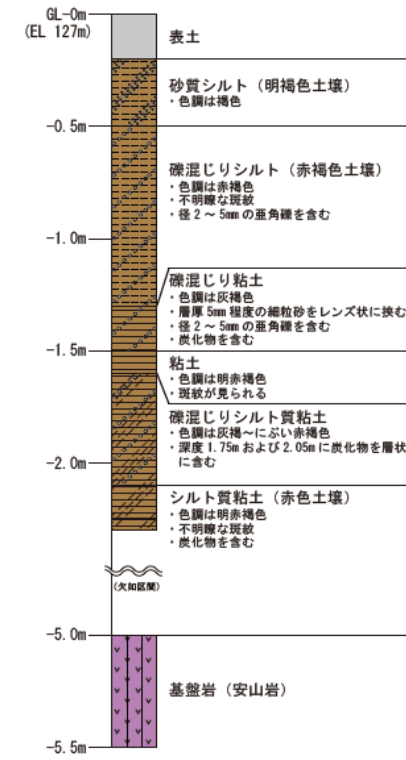
高ツボリ山東方リニアメント Loc.9 高位段丘V面 段丘面調査結果



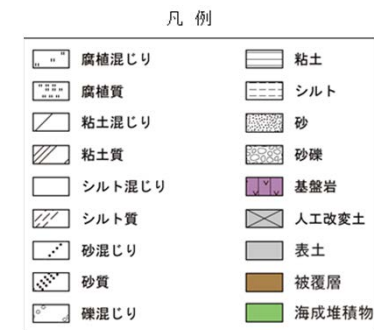
※: 活断層研究会 (1991) (基図: 1/200,000 地形図) とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部 (1997) (基図: 1/50,000 地形図) の断層トレース。



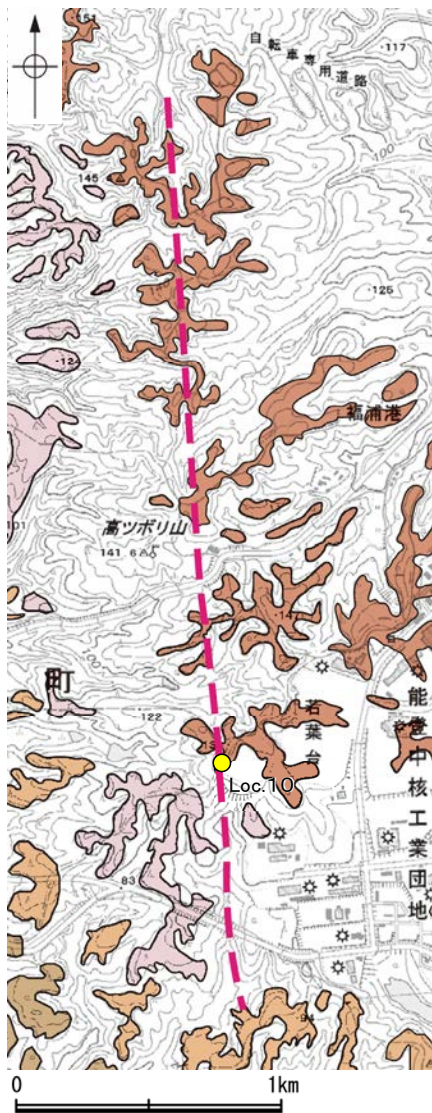
露頭写真



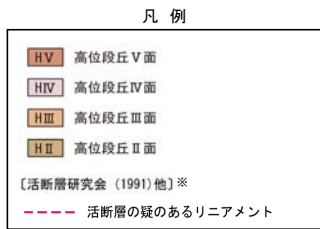
柱状図



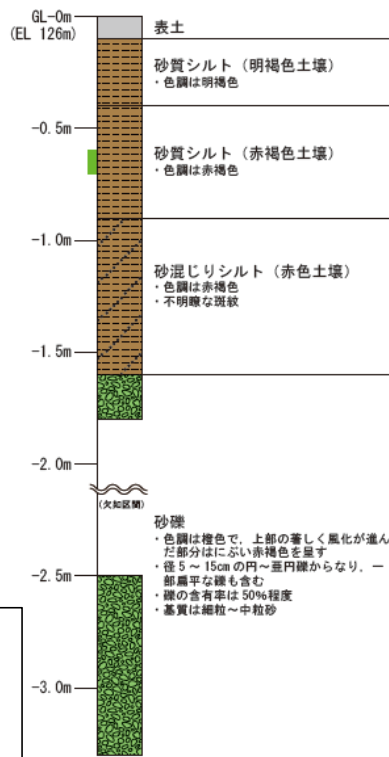
高ツボリ山東方リニアメント Loc.10 高位段丘V面 段丘面調査結果



位置図



※: 活断層研究会(1991)(基図:1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図:1/50,000地形図)の断層トレース。



柱状図



テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前

火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
	Bw	Pm	O	Opx	GHo	Cum				
0.0-0.1	357	0	8	13	49	0.1	9		1.497-1.500	AT+K-Tz混在
0.1-0.2	202	0	3	5	32	0	11		1.497-1.501	
0.2-0.3	115	0	2	1	15	0	19			
0.3-0.4	19	0	0	0.3	4	0	19			
0.4-0.5	9	0	0	0	2	0	19			
0.5-0.6	6	0	0.5	0.1	0.9	0	20			
0.6-0.7	6	0	0	0	0.2	0	18			K-Tz
0.7-0.8	4	0	0	0.1	0.4	0	8			
0.8-0.9	1.2	0	0	0.1	0.5	0	4			
0.9-1.0	0.6	0	0	0	0.1	0.1	4			
1.0-1.1	0.3	0	0	0	0	0	5			
1.1-1.2	0	0	0	0	0	0	11			
1.2-1.3	0	0	0	0	0.2	0	3			
1.3-1.4	0.2	0	0	0	0	0	6			
1.4-1.5	7	0	0	0	0.9	0.1	7			
1.5-1.6	0.1	0	0	0	0	0	16			

Bw: パブルウォールタイプ
Pm: ハミスタイプ
O: 低発泡タイプ

Opx: 斜方輝石 GHo: 緑色普通角閃石 Cum: カミングトン閃石

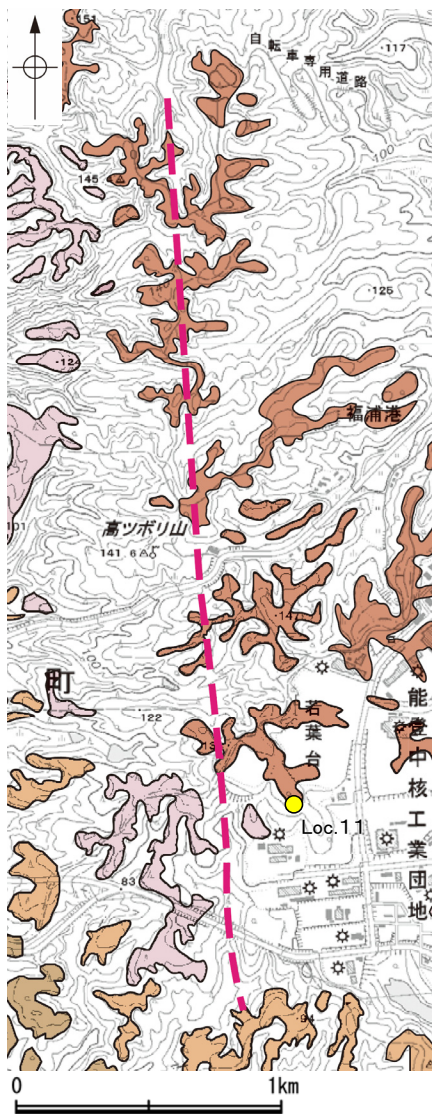


露頭写真(上部)

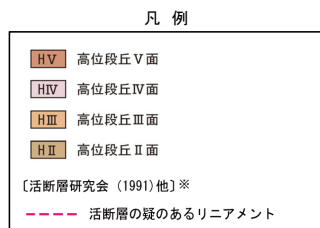


露頭写真(下部)

高ツボリ山東方リニアメント Loc.11 高位段丘V面 段丘面調査結果



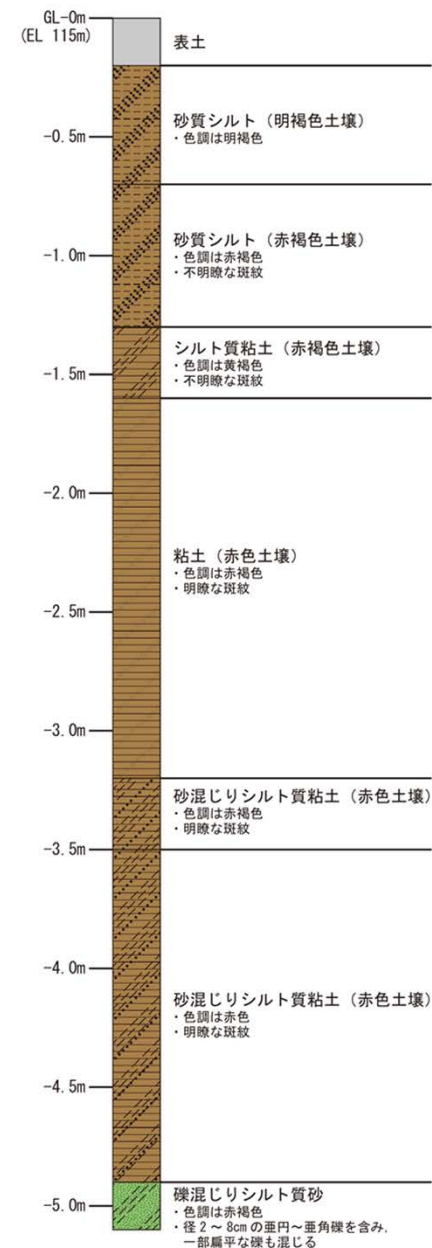
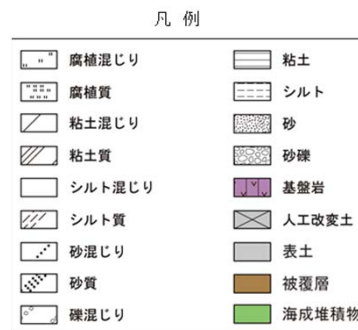
位置図



※: 活断層研究会(1991)(基図:1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図:1/50,000地形図)の断層トレース。

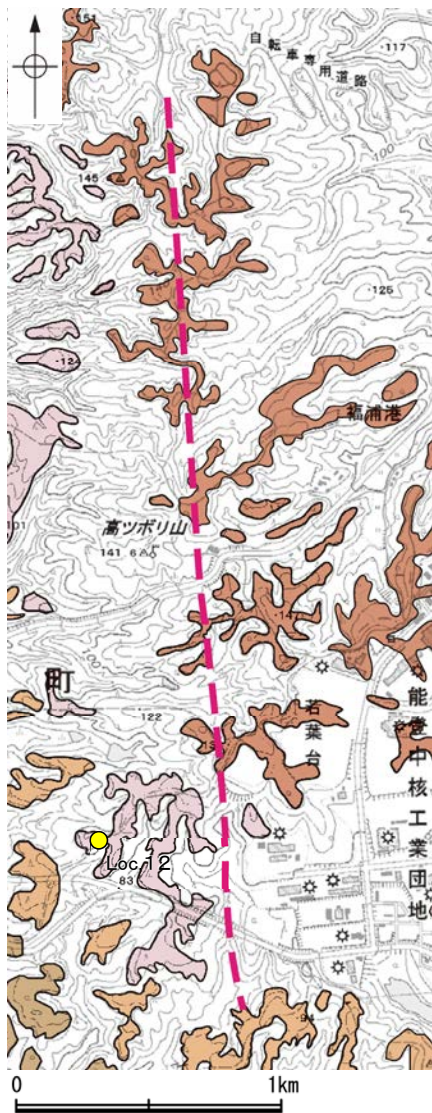


露頭写真



柱状図

高ツボリ山東方リニアメント Loc.12 高位段丘IV面 段丘面調査結果



位置図

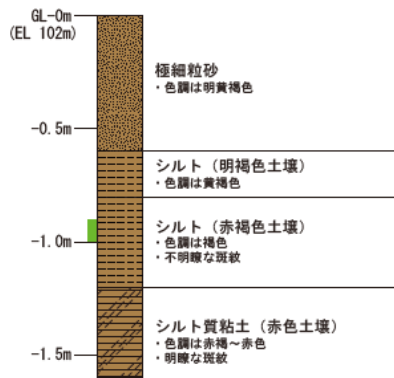
テフラ的年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前

凡例



※: 活断層研究会(1991)(基図: 1/200,000地形図)とほぼ同じ位置に図示し、より精度の高い、太田・国土地理院地理調査部(1997)(基図: 1/50,000地形図)の断層トレース。



柱状図

凡例



露頭写真

火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
	Bw	Pm	O	Opx	GHo	Cum				
0.0-0.1	240	0	16	13	66	0	3			AT+K-Tz混在
0.1-0.2	362	0	6	15	73	2	5		1.496-1.500	
0.2-0.3	292	0	7	20	47	1	5			
0.3-0.4	269	0	8	4	39	1	4			
0.4-0.5	271	0	4	16	76	3	5			
0.5-0.6	243	0	7	16	90	1	8			
0.6-0.7	60	0	2	10	44	0	7		1.496-1.501	
0.7-0.8	9	0	0	1	28	1	10			
0.8-0.9	5	1	0	0.6	13	0	9			
0.9-1.0	0	0	0	0	0.6	0	13			K-Tz
1.0-1.1	0.4	0	0	0	0.8	0	9			
1.1-1.2	0	0	0	0	1	0	4			
1.2-1.3	0	0	0	0	0.6	0	6			
1.3-1.4	2	0	0	0	0	0	4			
1.4-1.5	0	0	0	0	0.7	0.3	5			
1.5-1.6	1	0	0	0	0.4	0.4	4			

Bw: バブルウォールタイプ
Pm: ハミスタタイプ
O: 低発泡タイプ

Opx: 斜方輝石 GHo: 緑色普通角閃石 Cum: カミングトン閃石

補足資料2. 4－1

富来川南岸断層の地質調査データ

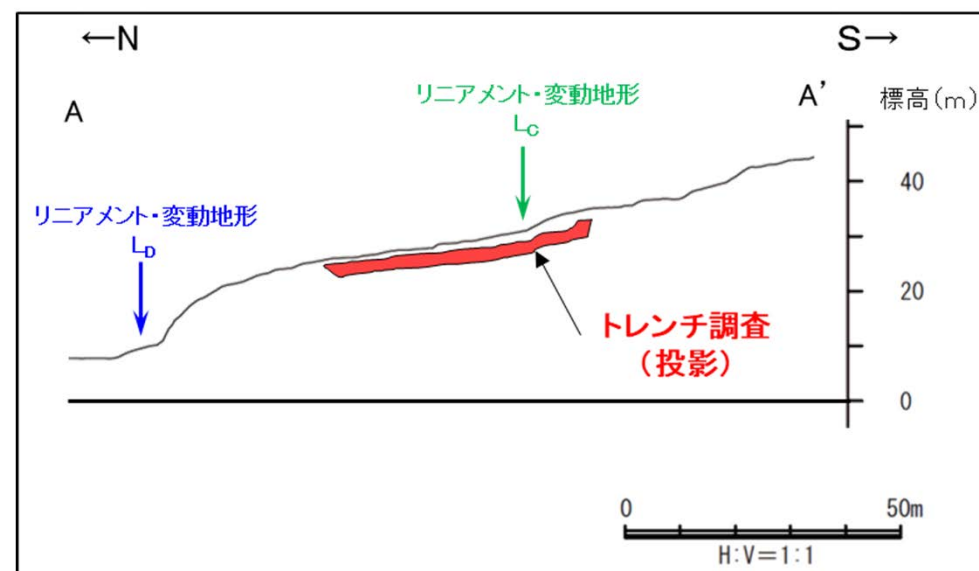
(1) 東小室西方 トレンチ調査

○Cランクのリニアメント・変動地形に対応する傾斜変換部を横断して、トレンチ調査を実施した。

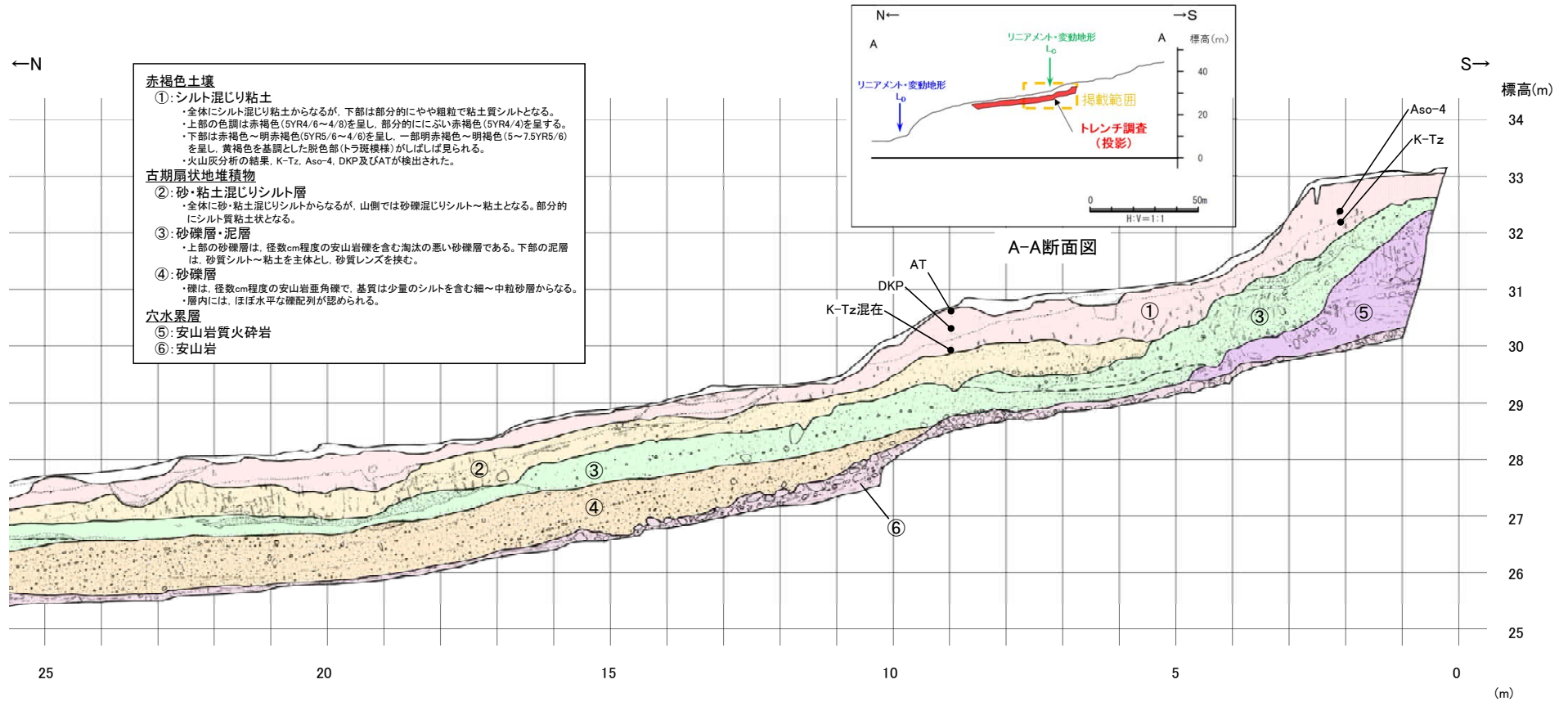
○傾斜変換部を横断して分布する古期扇状地堆積層及び穴水累層には、リニアメント・変動地形として判読した傾斜変換部に対応する断層は認められない。



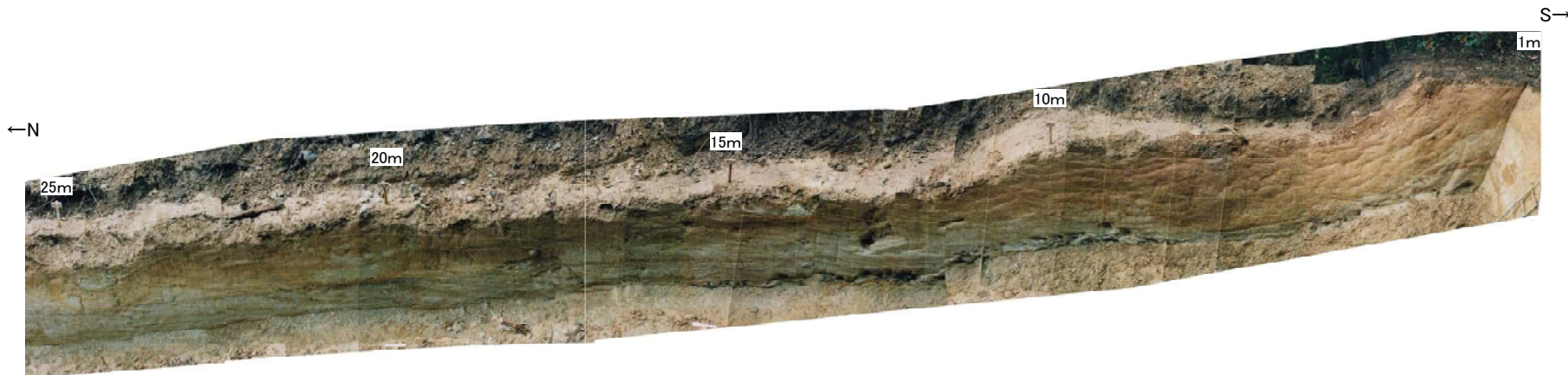
調査位置図



A-A断面図



トレンチスケッチ(西壁面)(反転)



テフラの年代
(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
DKP: 5.5万年前以前
Aso-4: 8.5万~9万年前
K-Tz: 9.5万年前

トレンチ写真(西壁面)(反転)